

# 平成 30 年度業務実績報告書

令和 元 年 6 月

石川県公立大学法人

法人の概要 (平成30年度の体制)

(1)法人名

石川県公立大学法人

(2)所在地

石川県野々市市末松一丁目308番地

(3)役員の状況

理事長 木下 公司  
 副理事長 石垣 和子(石川県立看護大学長)  
 副理事長 熊谷 英彦(石川県立大学長)  
 理事 清水 健次  
 理事 梶 富次郎  
 監事 中島 史雄  
 監事 松木 浩一

(4)設置大学

石川県立看護大学  
 石川県立大学

(5)学部等の構成

・石川県立看護大学  
 看護学部  
   看護学科  
   看護学研究科  
   看護学専攻

・石川県立大学  
 生物資源環境学部  
   生産科学科、環境科学科、食品科学科  
 生物資源環境学研究科  
   生産科学専攻、環境科学専攻、食品科学専攻、応用生命科学専攻  
   自然人間共生科学専攻、生物機能開発科学専攻

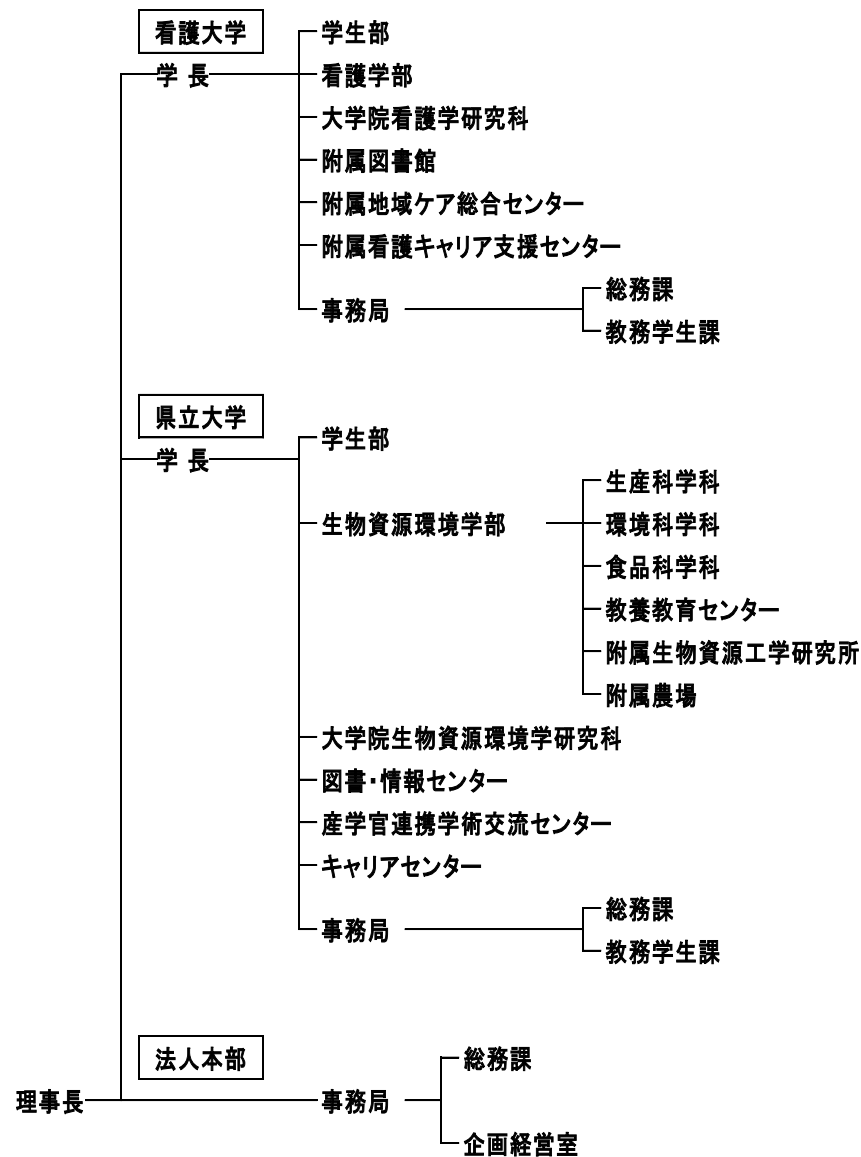
(6)学生数及び職員数(学生数は平成30年5月1日、職員数は平成30年4月5日時点)

・石川県立看護大学  
 学部学生 347 名  
 大学院学生 37 名  
 教職員 70 名 (学長1名、教員57名、職員12名)

・石川県立大学  
 学部学生 558 名  
 大学院学生 48 名  
 教職員 78 名 (学長1名、教員62名、職員15名)

・法人本部  
 職員 9 名 (理事長1名、理事1名、職員7名)

(7)組織図



## 業務全体の実施状況

### I 平成30年度業務実績の概要

平成30年度は第2期中期計画期間の2年目であり、「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」の3つの柱に基づき、中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施できるよう取り組んだ結果、年度計画を概ね達成することができた。以下、平成30年度における業務の実施状況について、中期目標の大項目ごとに記述する。

#### 1 石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### (1)教育課程の充実

###### ①社会のニーズに対応したカリキュラム改定

- ・看護学実習内容の変更・充実
- ・大学で学ぶ基本的能力強化を目的とした科目の追加
- ・教授内容の重複整理による科目の統廃合
- ・科目毎の単位と時間数のバラつきの均一化
- ・学生が理解しやすい科目名表記に統一 など

###### ②助産師養成課程の開設

- ・実習施設との連携調整を密に行い、実習機会を確保

###### ③大学院進学への喚起

- ・大学院教育懇談会の開催時期の変更
- ・学部生に対する大学院についてのオリエンテーションの実施

##### (2)教育実施体制の充実

###### ①教育資材の改善

- ・実習・実験環境の充実に向け教育研究用備品を整備
- ・無線LAN(Wi-Fi)の語学演習室等への設置拡充

###### ②自学自習の環境整備の推進

- ・「データベースによる文献レビュー研修会」を1年生から実施
- ・電子図書5ヵ年整備計画を策定

##### (3)学生への支援

###### ①学生の学修や生活上の相談体制の充実

- ・匿名による相談が可能な「SOUNDAN BOX」を学内に新設

###### ②早期にキャリアイメージを形成できるよう支援

- ・卒業生を招き、聴講及び意見交換の機会を提供

##### (4)研究の推進

###### ①地域課題解決の貢献

- ・健康増進に関する研究プロジェクトとして、冬場の運動不足解消を目的とした「か歩く健康ウォーキング事業」を実施

###### ②研究体制の改善

- ・委員会組織を少人数化し、教員の研究時間を確保

##### (5)地域貢献及び国際貢献の推進

###### ①地域連携事業の充実

- ・かほく市いきいきステーションを活用した新たな地域公開講座を計画
- ・猿鬼歩こう走ろう健康大会で健康キャンペーンを実施(能登町)
- ・限界集落での住民の健康チェックを実施(津幡町)
- ・学生ボランティア団体が、かほく市子育て支援センターでの託児ボランティア活動などを定期的に実施

###### ②認定看護師の養成

- ・認定看護師教育のニーズ調査を実施
- ・次年度に感染管理認定看護師教育課程の開設を決定
- ・認定看護師のフォローアップ研修や実践報告会の開催を通じて認定看護師のネットワーク構築を支援

###### ③国際交流事業の推進

- ・タイ及び韓国研修の充実によるグローバル人材の育成体制を強化
- ・ワシントン大学からの招聘教員と協働した英会話セッション等の実施

#### 2 石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### (1)教育課程の充実

###### ①カリキュラム改定とコース制の導入

- ・新たな農業環境や地域産業の変化に対応するため、カリキュラムを改定
- ・必要な知識をより体系的かつ効果的に学ぶことができるコース制を導入

###### ■新設された履修コース■

- 6次産業化 生産環境制御 里山活性化 先端バイオ
- ・次年度から英会話授業の少人数化を決定
- ・資格取得の充実

###### ■新たに取得可能となった資格■

- 鳥獣管理士(環境科学科)
- 食の6次産業化プロデューサー(生産科学科・食品科学科)

##### (2)教育実施体制の充実

###### ①施設・設備の拡充

- ・新設コースで使用する実習機器や実験実習棟(LEAFラボ1号棟)を整備

##### (3)学生への支援

###### ①就職支援の充実

- ・同窓会と連携した就職ガイダンス「就活Café」を響緑祭で開催
- ・後輩へのアドバイスなど卒業予定者の声を取りまとめ学生情報システムで公開
- ・公務員試験対策講座を実施

## 業務全体の実施状況

### (4) 研究の推進

#### ① 教員評価を活用した研究の推進

- ・外部資金の申請実績及び獲得実績を教員評価に反映
- ・教員評価結果を研究費の配分に反映

#### ② 共同研究の推進

- ・ブランディング研究の確立を目指して、全学的に取り組む3つの研究プロジェクトを中心に、学内外との共同研究を推進

#### ■ 3つの研究プロジェクト ■

石川発地球規模食糧増産 石川発健康寿命延伸 石川の自然と生物

### (5) 地域貢献及び国際貢献の推進

#### ① 県内企業や行政等と連携した研究の推進

(研究例)

- ・耕作放棄地でのヒツジの放牧生産
- ・地域の特産品(ツバキ、ヤーコン、ハトムギ)の健康増進効果の研究
- ・エアリーフローラのウイルス抵抗性品種の育成
- ・ミネラル栄養価の高いコメの開発
- ・能登キリンマツツジの開花調節

#### ② 産学官の連携強化と研究シーズの発信

- ・産学官マッチングイベントへの出展  
(BioJapan 2018、アグリビジネス創出フェア2018、Matching HUB Kanazawa 2018)
- ・石川県産業創出支援機構(ISICO)、いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)と連携したシーズ発表会の開催と、金沢市のシーズ発表会に参加

#### ③ 海外大学との交流、連携の強化

- ・屏東科技大学(台湾)と合同セミナーを日本で実施

#### ④ 海外留学等の促進

- ・「トビタテ！留学JAPAN」を積極的に活用し、学生の海外留学を促進  
(院生1名が韓国に、学部生1名がラオスに留学)

### 3 業務運営の改善・効率化に関する目標

#### (1) ガバナンス体制の強化による大学改革の推進

(看護大学)

- ・グローバル人材育成プランの策定
- ・広報改革や基礎科学教育、図書館機能の充実に向けて5ヵ年計画を策定  
(県立大学)
- ・カリキュラム改定にあたって、外部有識者から意見を聴取
- ・コース制の導入に伴い、コース長を設置

#### (2) 両大学間連携の推進

- ・合同FD研修会及び合同研究発表会の開催
- ・両大学の共同研究の促進

### (3) 事務組織等の整備と効率化

- ・正規職員が企画立案業務に注力できる体制の整備(県立大学)
- ・成績証明書や学割証等の証明書自動発行機を導入(県立大学)
- ・グループウェアを活用した備品管理の実施(県立大学)
- ・ウェブ出願の導入に向けた検討の実施(共通)

### (4) 教育研究組織体制の改善

- ・教員編成方針を取りまとめて公表(看護大学)
- ・人間科学領域及び健康科学領域の科目群担当制に向けた検討を開始(看護大学)
- ・カリキュラム改定を踏まえた新分野の教員の採用(県立大学)

## 4 財務内容の改善に関する目標

### (1) 外部資金の獲得

- ・受託・共同研究資金獲得件数の増加(県立大学)  
前年度比+10件(H30:55件、H29:45件)

### (2) 志願者の増加に向けた取り組み

(看護大学)

- ・前年度の高校訪問調査結果を踏まえたPR資料の作成
- ・個別高校訪問の際に使用するチラシの作成
- ・大学の特色やキャンパスライフを発信する受験生応援サイトを整備
- ・広報媒体の統一のリニューアルに向けた業者の一元化  
(県立大学)
- ・コース制の内容を解説した動画や特設サイトの整備
- ・教育、研究内容を高校生向けに分かり易く紹介するショートムービーの作成
- ・高校生や保護者をターゲットにした高校訪問の実施
- ・県内高校の理科クラブの実験・実習セミナーを実施

### (3) 維持管理経費の節減

- ・電力会社の省エネコンサル等を活用した電気料金の節減
- ・施設管理等の業務委託契約において、内容を精査のうえ長期契約を締結

## 5 自己点検評価及び情報提供に関する目標

### (1) 大学への評価を活用した取組み

(看護大学)

- ・教育の内部質保証に関する大学の方針について明文化し、学内に周知
- ・自己点検評価サイクルに活用する在学生・卒業生調査を充実  
(県立大学)
- ・大学院定員充足に向けて、  
2年生から博士前期課程への進学希望を募り、適切な担当教員へマッチング
- ・特待生制度及び推薦入学制度を継続

業務全体の実施状況

**6 その他業務運営に関する目標**

**(1) 施設設備の計画的な更新**

- ・長期修繕計画に基づいて空調設備を更新
- ・備品整備計画に基づいて教育研究用備品を更新
- ・学生情報システム等の情報システム機器を更新

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (1) 学士課程  
 ① 学生の受入れ

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | アドミッション・ポリシー(入学者の受入れ方針)に基づき、学生を確保する。高大接続改革に沿ってアドミッション・ポリシーを一層明確化し、入学者選抜方法を適切に設定する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No  | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|-----|---|------|--|
| 1  | アドミッション・ポリシーに沿って、オープンキャンパス、ホームページ、高等学校での出前授業等を通して大学の方針や情報を提供するとともに、高等学校との交流を深め、高大接続改革に沿った入試改革を検討する。 | 1-1 | アドミッション・ポリシーに沿った学生の確保のため、ホームページ等の内容を見直すとともに、オープンキャンパス・高校訪問等で大学の特色や強み等について広報の充実を図る。また、高校との情報交換の機会を充実させ、適切な学生の推薦や入試方法を検討する。 | Ⅲ    | ホームページ内に受験生応援サイトを設けるなど改善を行った。高校の進路指導教員との意見交換会を少人数化して実施することにより高大接続入試改革に関する高校側の状況をより詳しく把握し、本学の入試改革の参考とした。また、本学の学習環境をPRするために学舎の案内を加えた。オープンキャンパスと高校訪問時に3つのポリシーを周知するとともに、本学の特徴を示したリーフレットを配布した。また高校訪問時には、当該高校から入学した学生のメッセージ入りのチラシを持参することで看護職志望学生への訴求力を高めた。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (1) 学士課程  
 ② 教育の内容

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 社会ニーズに照らして、現行の教育課程の課題を把握し、大学の特色を活かした改善を図る。カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)に基づき、アクティブ・ラーニング(能動的学修)の導入を進めるなど、効果的な方法で教育を行う。ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に基づき、学生の学修成果を把握し、適正な成績評価により卒業を認定し、学位を授与する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No  | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|-----|---|------|---|
| 2  | 社会ニーズに照らして現行の学部カリキュラムの課題について検討し、カリキュラム・ポリシーに沿って、新カリキュラムおよびシラバスに反映させる。また、各科目間のつながりを明確にし、カリキュラムの体系化を図る。 | 2-1 | カリキュラム検討ワーキングにおいて現行カリキュラムの課題を抽出・精査するとともに、看護学教育の有識者の意見収集や臨地実習施設との調整を行い、社会のニーズに対応した体系的なカリキュラムの改定に向けて検討する。 | IV   | 社会のニーズに対応したカリキュラムの見直しを実施し、大学で学ぶための基本的能力強化を目的とした科目の追加や、教授内容の重複の整理による科目の統廃合、必修・選択区分の変更、科目毎の単位と時間数のバラツキの均一化などを行うとともに、学生が理解しやすい科目名表記に統一した。また、看護学実習では、今後、医療施設から地域へと医療・看護の場が移行することから、継続的なチーム医療とケアを提供できる能力の強化を図るための内容に変更した。さらに、令和2年度より前倒しで開講する実習科目の臨地実習施設との意見交換と調整、担当教員への内容の周知等を行った。 |
| 3  | 自発的な国内外の活動参加や異学年交流を推奨して学生の主体的な学修を促進するとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れたカリキュラムを推進することで学修効果を高める。                    | 3-1 | 学生の主体的な学修や異学年交流を促進するため、地域活動や国際貢献事業の報告会等に多くの学年が参加できるよう調整を図るとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を積極的に実施する。            | III  | ヒューマンヘルスケア科目やアメリカ看護研修の報告会を全校集会時に開催した。ヒューマンヘルスケア科目では、地域住民や社会活動に継続的にかかわり、情報収集内容や活動内容を異学年交流型の合同成果発表会で報告し、活発な質疑応答が行われた。また、フィールド実習では課題解決型学習として実施した「地域探索型」と「地域連携(能登町民泊)型」の実習内容を合同発表会で報告し、ディスカッションと自己・他者評価を行った。  |
| 4  | 臨床教授等を活用し、医療・社会制度の動向に沿った教育を実施する。  | 4-1 | 臨床教授等称号付与制度を継続するとともに、臨床教授との意見交換会を開催して臨床現場の意見を収集し、看護学実習環境の充実に向けた検討を行う。                                   | III  | 平成30年度の臨床教授等の称号は、新規46名、継続152名、計198名(内訳、臨床教授18名、臨床准教授72名、臨床講師108名、計198名)であった。臨床教授等(臨地実習指導者)と大学教員との連携強化と双方の教育力向上を目的とした意見交換会を2月に開催し、55名が参加した。  |
| 5  | ディプロマ・ポリシーに沿って、科目ごとの成績評価基準を精査し、教育上の課題および学修状況の把握・改善に活用する。  | 5-1 | GPA評価の結果を継続精査し、学生の学修状況を把握し、教育改善に向けた課題を抽出する。   | III  | GPA評価の結果を継続精査し、学生の学修状況の把握に努めた。今後、領域別に経年的な推移の分析を行うなど、GPAから考えられる課題の抽出を行う。   |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (1) 学士課程  
 ③ 教育の成果

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 人間の生命と生活の質を理解できる豊かな人間性や倫理観とともに、看護職者として必要とされる高度な知識・技術を備え、看護に求められる社会的使命を遂行しうる人材を育成する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No  | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|-----|---|------|--|
| 6  | 大学の教育理念および特色を踏まえ、学部の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を学生の視点に立って一体的に見直し、豊かな人間性を備えた看護職者を育成する。 | 6-1 | 学生及び卒業生を対象としたアンケート調査に学部の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に関する質問項目を盛り込み、本学の教育理念や目標に対する認知度を把握する。 | Ⅲ    | 前回の質問内容を吟味した上で学生及び卒業生に対して3つのポリシーに関する質問項目を盛り込んだアンケートを平成31年2月に実施し、本学の教育理念や目標に対する認知度把握に努めた。 |
| 7  | 卒業生や医療機関を対象としたアンケート等を通して学部の教育成果を検証し、教育内容を改善する。   | 7-1 | 卒業生・医療機関・学生に対するアンケート調査の実施や臨床教授等との看護教育懇談会の開催を通して、学部教育の成果を検証するとともに学生等の視点に立った改善方策を検討する。                      | Ⅲ    | 卒業生、医療機関、学生に対するアンケート調査や臨床教授との懇談会の結果を踏まえ、実習施設との更なる連携強化など、教育改善に努めた。                        |



項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (2) 大学院課程  
 ① 学生の受入れ

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | アドミッション・ポリシー(入学者の受入れ方針)に基づき、保健、医療及び福祉等の領域から広く職業経験を有する社会人や留学生などを安定的に確保する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No  | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|-----|---|------|---|
| 8  | アドミッション・ポリシーに沿って、社会人や在学生の大学院で学ぶ意欲を喚起するとともに、学修支援の方策について検討する。 | 8-1 | 改訂したアドミッション・ポリシーに沿って、社会人や在学生の大学院で学ぶ意欲を効果的に喚起するための具体的方策及び学修支援の充実について検討する。  | IV   | <p>社会人の大学院進学への喚起および社会人大学院生の学修支援を目的に、平成30年度は時期を早めて5月に北陸3県の医療機関の看護部長等の参加により大学院教育懇談会を開催した(北陸3県より17名出席)。大学院教育の特徴の説明や修了生による学修プロセスと学びについての説明を行い、社会人大学院生の学修支援の協力を要請した。</p> <p>また、学部生の大学院進学を喚起するために、進路支援部会と連携して3年生全員に向けて大学院で学ぶ意義や大学院の学修内容のオリエンテーションを行い、現役の大学院生に具体的な大学院生活を説明してもらう機会を設けた。</p> <p>学修支援の充実については、修士論文に関して、複数領域から支援を行う体制の強化や、遠方学生の利便性を考慮して、ウェブ会議システムを活用したゼミの実施などを行った。</p> |
| 9  | 国内外の受験希望者が教員の教育研究活動を理解しやすいようホームページを充実させるとともに、入試方法の改善を図る。    | 9-1 | 国内外の大学院受験希望者が教員の教育研究活動や本学の特徴を理解しやすくするため、ホームページにおいて大学院に関連する情報を充実させる。また、助産師養成課程及び将来の教育研究者を希望する学生に対して、大学院の学内選抜試験を実施する。 | III  | <p>国内外の大学院受験希望者が教員の教育研究活動や本学の特徴を理解しやすくするため、ホームページにおいて大学院に関連する情報を案内するとともに平成31年度のホームページリニューアルに向けて準備を行った。大学院に助産師養成課程を設けて2年目であるためその広報に努め、学内選抜試験及び一般選抜試験の2種類の試験を実施して定員を確保した。また、博士前期課程研究コースへの学内選抜も開始したが、本年度は学内周知の時期が適切でなかったため、次年度以降に向けて出願期間と試験実施時期の見直しを行った。</p>   |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (2) 大学院課程  
 ② 教育の内容

中期目標 社会ニーズに照らして、大学院教育課程の課題を把握し、大学の特色を活かした改善を図る。  
 また、高度実践看護師の教育内容を検討し、必要な改革を行う。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|--|------|--|
| 10 | 新たな高度実践看護師の養成等に向けて教育内容を検討し、カリキュラム・ポリシーに沿って、必要に応じて新課程の開設等を行う。     | 10-1 | 大学院において新たに助産師養成課程を開設し、実習施設との連携調整を密に行い、教育カリキュラムの円滑な運用を図る。また、大学院教育懇談会やCNS活動報告、北陸CNSの会等を開催し、CNS(専門看護師)教育の充実を図る。 | IV   | 今年度は助産師養成課程の開設初年度であり、円滑な講義・実習運営等がなされるよう非常勤講師の大幅な増員や講義室の確保、他の分野との連携などの課題を確認しながら大学院運営を行った。実習施設との連携調整を密に行い、想定を上回る実習機会を確保することができた。次年度は、2期生を迎えて完成年度を迎えるため引き続き検討を図っていく。<br>また、CNS(専門看護師)教育の充実に向けて、平成30年度は時期を早めて5月に北陸3県の医療機関の看護部長等の参加により大学院教育懇談会を開催した。CNS活動報告及び北陸CNSの会等の開催をCNSが主体的に企画・運営できるように支援し、3月には北信がんプロ公開事例検討会「人生最終段階の生をどう支えるかー人生から治療の意味を考えるー」を開催し、112名の医療関係者や院生が参加した。 |
| 11 | 大学院生の修了後の動向を把握するとともに、ディプロマ・ポリシーを再考し、現行カリキュラムや論文指導等の課題把握および改善を図る。 | 11-1 | 大学院修了生の修了後の状況(医療機関や役職等)及び修了生の大学院に対する期待(教育内容や論文指導等)を考慮し、教育カリキュラムの改善検討を行う。                                     | III  | 平成30年度から、学内外の要請を受けて大学院博士前期課程に助産師養成課程を開設し、3コース制へ大学院教育の拡充を図った。研究指導体制を強化するとともにそれぞれのコースの特徴を活かした円滑な運営が実施できるよう、前年度改訂した修士論文の評価基準を見据えて助産看護実践コースの論文審査のスケジュールを策定するなど、改善を行った。<br>また、大学院の在学生および修了生からの意見を受けて、研究能力や高度看護実践能力の育成に関するカリキュラムの検討を行ったところ、外国語文献の読解力の向上、量的研究に関する方法論の学修を充実させる必要性、事例検討を通して実践を振り返る指導力などの課題が明確になったため、次年度以降改善に向けた検討を継続していく。                                     |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (2) 大学院課程  
 ③ 教育の成果

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 看護を取り巻く状況が高度化、複雑化、専門化する中であって、より質の高い看護を提供する実践者、広い視野を持ち、現場の状況を踏まえた教育者・研究者を育成する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|--|------|--|
| 12 | 大学の教育理念および特色を踏まえ、大学院の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を学生の視点に立って一体的に見直し、高度な知識と実践能力を備えた研究者、看護専門職を育成する。 | 12-1 | 改訂した大学院博士課程の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に沿って、大学院の教育カリキュラムの改善検討を行う。 | Ⅲ    | 改訂した大学院博士課程の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に沿って、博士前期課程の学位論文の投稿状況や大学院修了後の研究継続状況、高度実践看護師(専門看護師)の受験者数の状況などを指標として課題を抽出し、大学院教育のカリキュラムの改善を検討した。今後、研究能力の向上や、高度看護実践の課題の明確化やケアの発想が広がるような柔軟な思考を育むカリキュラムについて改善を検討していく。 |
| 13 | 修了生を対象としたアンケート等を通して大学院の教育成果を検証し、教育内容を改善する。   | 13-1 | 大学院修了時に修了生アンケートや懇談会の実施を継続し、その結果を分析することで大学院教育の充実を図る。                                | Ⅲ    | 大学院生修了生アンケートや懇談会、適宜実施するヒアリングを通じて学生の意見を聴取し、その結果を活用して学習環境改善に努めた。<br>(改善内容)<br>・土曜日の演習室開放<br>・プロジェクターの配備<br>・オムニバスの授業においては各教員の課題などが院生に伝わるよう適切な情報提供の実施   |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (1) 教育の実施体制

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 教育目標を効果的に達成するため、学士課程においては、教育研究指導力の優れた教員を確保して適切に配置し、適切な教育体制を構築するとともに、大学院課程においては、専攻分野の専門性を高めると同時に、研究指導や教育支援体制の改善に努め、教育研究指導を充実させる。 |
|------|---|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 14 | 組織的に学部・大学院の改正カリキュラムを遂行するため、運営上の課題を検証し、適切な教員配置や指導體制の改善など、必要に応じて教員組織の改編を行う。 | 14-1 | 学部及び大学院の教育内容見直しの進捗状況に応じて、より効果的な教育研究指導を行うことができるよう教員組織体制等を検討する。 | Ⅲ    | より効果的な教育研究指導を行うことができるよう教員組織体制の検討を行い、教員組織編成を見直すのは次のカリキュラム改革時の方が適切と判断した。<br>新たに教員組織編成の方針を明文化して学内に周知し、ホームページにも公表した。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (2) 教育活動の点検評価・改善

中期目標 教育活動を点検評価し、評価結果に基づき教育活動の改善を図る。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 15 | 学部・大学院において、学生による授業評価を実施し、その結果を活用した授業改善・改革を実施する。 | 15-1 | 学部・大学院の学生による授業評価を実施し、その結果を学内公表するとともに、授業改善に向けた課題を整理する。 | Ⅲ    | 授業評価結果を継続して学内に公表した。また、具体的な授業改善に活用するため、平成30年度後期の授業評価から、低い評価をつける場合はその理由を記すことを学生に働きかけた。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (3) 教員の教育力の向上

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 教員の教育力の改善と向上のため、教育研究環境の整備を行うとともに、授業の改善に向けたファカルティ・ディベロップメント(組織的に行う教員の教育力開発活動)を充実する。 |
|------|--|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|--|------|---|
| 16 | 教育力向上に関する取り組みの先進事例を調査し、教員の教育力向上施策の具体化を図る。                    | 16-1 | アクティブ・ラーニングの推進など、教員の教育力向上に向けた研修会を企画するとともに、他大学等の先進事例を調査する。    | Ⅲ    | 成績評価に関するFD研修会を2回実施した(8/18、2/15)。金沢工業大学における高大接続教育の実践例を調査した(2/22、3/8)。学修成果の可視化に関する調査として、「学修成果の可視化」フォーラム(玉川大学主催)に参加し、「可視化のためのルーブリック活用の現状と課題」「『PROG』調査の活用法」に関する情報を入手した(3/13)。 |
| 17 | 職位に応じた指導能力を修得できるよう、職位毎の研修や昇任者研修等においてファカルティ・ディベロップメント研修を実施する。 | 17-1 | 職位に応じて、学生支援や最新の学術動向に関するFD(ファカルティ・ディベロップメント)研修を体系的に充実させ、実施する。 | Ⅲ    | 若手教員の実習指導能力向上を目的に、実習の場での学生支援に関する研修会を行い、実習に臨む学生の心理的な側面への支援を強化した。<br>開催日:3/20 参加:助手・助教14名、講師・准教授6名  |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (4) 教育環境の整備

中期目標 学生の学修意欲や教育効果の向上を図るため、学生の学修環境を適切に整備する。

| No | 中期計画                                     | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|--|------|---|
| 18 | 教育資材の計画的な更新を図るとともに、効果的な教育に必要な学修環境の充実を図る。 | 18-1 | 無線LAN環境の拡充等、教育カリキュラムの改訂に伴う環境整備を行うとともに、教育資材の改善計画を適正に施行する。                           | IV   | 備品整備計画に基づき、教育資材の計画的な更新を図るとともに、無線LAN(Wi-Fi)の語学演習室等への設置拡充や、実践的な実習・実験環境の更なる充実を図るため、実験・実習用備品の整備を行った。  |
| 19 | 図書館やICT等を活用した自学自習の環境整備を図る。               | 19-1 | 実習等で活用度の高い「外部からアクセス可能な電子図書」を充実させるとともに、データベースによる文献レビューの学修環境を強化することで、自学自習の環境整備を推進する。 | III  | 従来は3年生から行っていた「データベースによる文献レビュー研修会」を1年生から行うよう拡充し、自学自修の基盤強化に努めた。(受講者数:1年生58名、2年生74名、3年生82名、その他院生等9名)実習等で活用度の高い「外部からアクセス可能な電子図書」は令和5年度までの5カ年計画で整備することとした。また、データベース「メディカルオンライン」の学外からのアクセス機能は平成30年度も継続した。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

I 教育に関する目標  
3 学生への支援  
(1)学修支援

中期目標 学生が自主的、能動的に学ぶ意欲を高める方策を導入するとともに、学修・生活・就職・進学に関する疑問や悩み等を相談できる支援体制を強化する。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|--|------|---|
| 20 | 表彰制度などを活用することにより勉学や地域活動等に対する意欲を促すとともに、地域におけるボランティア活動など、主体的な学生の取り組みを支援する体制を整備する。 | 20-1 | 成績優秀者・模範となるボランティア活動を行った学生を卒業式や開学記念日などの機会に表彰し、その活動内容をホームページ等の媒体を通して情報発信する。      | Ⅲ    | 平成30年度の卒業式では成績優秀者および模範となるボランティア活動を行った卒業生計5名と模範となる研究を行った大学院修了生1名の学長表彰を行った。大学コンソーシアム石川の事業である「学都いしかわグローバル人材育成プログラム」において、新たに4名の学生が最高位修了証である「グローバル・ヤングリーダー」の称号を授与されるなど、学生の主体的な取組が広がっている。学生の顕著な活動については大学ホームページを通じて情報発信しているほか、新聞やTVなどのメディアを通じての積極的な広報を行った。 |
| 21 | アンケート調査などを通して学生の要望を把握し、学修支援の充実を図る。  | 21-1 | 学修支援の充実を図るため、大学生活や学修環境についての学生アンケートを全学年対象に実施し、学生の現状及び要望を把握するとともに必要な改善策を検討、実施する。 | Ⅲ    | 平成29年度に実施したアンケート結果に基づいて、国家試験対策および進学・就職の支援強化、担任および進路支援の教員による個別面談による支援強化を実施した。また、学生代表と学長との懇話会で要望のあった「試験結果の開示」については、教員全体会議で周知し、令和元年度から実施することとした。<br>学習環境の改善として体格の大きい学生用の講義室机・椅子及び、食堂用電子レンジを整備した。<br>学生が求める支援をより詳細に把握するため、質問項目を改訂したアンケートを2月に実施した。       |
| 22 | 学修や生活上の課題とその背景を把握し、相談体制などの支援体制を整備するとともに、それらを解決するための組織的、一体的な体制を構築する。             | 22-1 | 学生委員会及び事務局等が連携し、学部生・大学院生の学修や生活上の相談体制を維持するとともに、給付型奨学金や授業料免除等について他大学の情報収集を継続する。  | Ⅳ    | 平成30年度の新たな取り組みとして「SOUNDAN BOX」を学内3箇所に設置し、匿名による投書やメールによる相談が可能な体制とした。実習に対する不安についての相談に対しては、全学的に情報共有し、保健室担当教員・学生相談部会・担任・副担任の連携を強化するとともに、実習記録の形式を簡素化する等の改善を行った。<br>給付型奨学金や授業料免除等について、近隣の公立大学の状況を調査するとともに、令和2年度より新しく導入される高等教育の無償化に関する制度の説明会に参加し情報を収集した。   |



項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

I 教育に関する目標  
 3 学生への支援  
 (2)進路支援

中期目標  
 就職、キャリア形成支援を強化する。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|--|------|---|
| 23 | 学生が主体的にキャリアプランを実現できるよう、資格取得支援や進路先に応じた進路支援を実施する。 | 23-1 | 学生が早期にキャリアイメージを形成できるよう、全学年を対象とした学生セミナー等を開催し、卒業生等との交流の機会を設ける。 | Ⅲ    | キャリアイメージの形成を促進するため、5月の開学記念日に、3年生が将来進みたい看護領域で働く卒業生を招き、将来の自分たちの看護職としての姿をイメージできるように、聴講及び意見交換の機会を設けた。<br>年度末には、3年生に対し、4年生と卒業生から、就職活動や国家試験対策の体験、就職先について、直接情報収集できる機会を設けた。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 3 学生への支援  
 (3) 卒業生・修了生支援

中期目標 卒業生・修了生と大学との関係を強化するとともに、卒業後のキャリア形成や活動領域の拡大を支援する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 24 | 同窓会と連携して卒業生および修了生の情報を整備し、卒業・修了後のキャリア形成支援に活用する。 | 24-1 | 同窓会と連携し、学部卒業生・大学院修了生における求人情報提供システムの活用状況を把握する。また、昨年度に実施した卒業生に対するアンケート調査の結果を受けて、キャリア形成支援に関する課題の整理を行う。 | Ⅲ    | 同窓会と連携して、卒業生を招いての講演やセミナーを開催し、低学年時から進路について考え、アドバイスを受けられる機会を提供した。<br>大学の同窓会のホームページに「求人情報」を掲載した(求人情報提供システム)。求人情報提供システムの活用状況を把握するため、卒業生アンケートの活用等を検討していくこととした。<br>また、前年度に実施した卒業生に対するアンケート調査の結果を分析したところ、本学に対して「専門知識を深めるための支援・研修」「再就職や進路変更の支援」「教養を深める生涯学習支援」などを希望していることが判明した。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- II 研究に関する目標  
1 研究の水準、方向性及び成果

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 地域資源を活かした地域の課題解決など、社会ニーズを適切に反映した研究及び看護学の発展に貢献する研究を行い、その研究成果を公表する。 |
|------|---|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 25 | 地域、行政、保健、医療及び福祉分野等の課題解決につながる研究を推進し、公開講座等により成果を公表する。   | 25-1 | 地域の課題解決に貢献するため、前年度に立ち上げた健康増進に関する研究プロジェクトを継続して推進する。            | III  | 健康増進に関する研究プロジェクトを実行する「健康づくり研究会」のメンバーが中心となって、かほく市およびイオンモールかほくと連携し、冬場の運動不足解消を目的とした「か歩く健康ウォーキング事業」を実施した。  |
| 26 | 各教員の研究活動の活性化および成果の公表(論文、学会等での発表等)を推進し、研究業績の質・量の向上を図る。 | 26-1 | 教員の研究及び成果の公表を推進するため、研究テーマの拡充を目的として他大学との学際的研究交流を強化し、共同研究を実施する。 | III  | 他大学との学際的研究交流については、石川県立大学と4つの研究プロジェクトを継続して実施するとともに、新たな共同研究を推進するため調整を行った。成果の公表の推進については、学際的研究に限らず海外での学会発表のための海外渡航費や外国語の書籍・学術論文などの掲載費を助成する制度を継続した。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

II 研究に関する目標  
2 研究の実施体制

中期目標 効果的な研究活動を遂行する体制を整備するとともに、更なる研究意欲の醸成を図る。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 27 | 研究時間を確保するために大学運営に対する業務を見直すとともに、大学全体の研究推進体制の課題を把握し必要な整備を行なう。 | 27-1 | 前年度に実施した研究に関するアンケート調査の結果を受け、研究体制の改善案(研究時間確保のための方策や指導体制の充実等)を策定し、実施する。 | III  | 教員の研究時間確保のために、一人の教員が受け持つ委員会の数を減らし学内運営の負担を軽減した。研究指導体制の充実を目標として、研究内容や研究組織化について検討を行うとともに、科研費申請書のブラッシュアップ等の支援を行った。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- Ⅲ 地域貢献に関する目標  
1 地域における産学官連携の推進

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 県内の病院や県、市町、他大学、研究機関、地域等と連携し、地域が抱える課題の解決や地域医療の充実等にご貢献する。 |
|------|---|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|---|------|---|
| 28 | 地域ケア総合センターの機能を活かし、現場の看護職者のニーズを把握して看護の質向上につながる支援を、研究成果と関連付けて行うとともに、その効果や成果を検証する。 | 28-1 | 地域ケア総合センターの人材育成事業として、看護職者等を対象とした事例検討会や医療機関等への講師派遣を継続する。また、新たに奥能登地域に在住する看護職者に対して在宅看護に関するスキルアップ研修を実施するとともに、これらの事業を通して地域看護のニーズ及び課題を把握する。 | Ⅲ    | 平成29年度に引き続き、人材育成事業として医療機関等への講師派遣を継続した。また奥能登地域を会場として能登北部医療圏の在宅療養移行支援(参加者120名)、能登地区の小規模事業所の看護師への看護技術のスキルアップ(参加者25名)をめざした2つの事業を実施した。これらの事業を通じて今後はいかにして地域包括ケアを実践していくかが課題になることが明らかとなったため医師やケアマネージャーなど他職種も含めた事例検討会の開催に向けて検討を行った。  |
| 29 | 地域のニーズ調査等、多様な方法で地域ニーズを把握し、自治体や大学コンソーシアム石川等と連携して地方創生を推進するとともに、広く地域活性化等の支援を行う。    | 29-1 | 地域住民の健康・福祉の向上を図るため、かほく市・能登町・津幡町と連携した健康増進活動や、地域住民を対象とした子育て支援に関する公開講座等を継続するとともに、地域のニーズを踏まえて、今後の地域連携事業の充実に向けた方策を検討する。                    | Ⅳ    | 地域住民の健康・福祉の向上を図るため、地域ケア総合センターを中心に、かほく市、能登町、津幡町などと連携し、健康増進活動を実施した。(かほく市)冬場の運動不足の解消を目的とした「か歩く健康ウォーキング事業」など<br>(能登町)猿鬼歩こう走ろう健康大会で健康キャンペーンを行う「来人喜人能登健康づくり支援事業」<br>(津幡町)限界集落での住民の健康チェックを行う「棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり」<br>また、平成30年度に開設されたかほく市いきいきステーションを活用して、次年度には、高齢者の健康維持向上を目的とした新たな地域公開講座を実施することとした。<br>学生独自の活動として、学生ボランティア団体「子育て支援サークル・ひよっこ」が、かほく市子育て支援センター「おひさま」での託児ボランティアや子どもへの読み聞かせ、イクメン推進事業「親子ふれあい遊び」等での活動を定期的に実施した。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- Ⅲ 地域貢献に関する目標  
2 地域人材の育成と定着の促進

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 地域の保健、医療及び福祉の向上に貢献するため、医療現場、自治体、地域ニーズに対応した、地域の保健、医療及び福祉を担う人材を育成し、地域での定着を促進する。 |
|------|---|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 30 | 地方創生推進事業(COC+)および地域における健康増進活動等を通して、地域に対する学生の関心を高め、地元定着率を維持・向上させる。 | 30-1 | 県内他大学とともに地方創生推進事業(COC+)を推進し、石川県の産業や文化等に関する映像教材を使った「地域指向型教育」を実施するとともに、県内で看護職として活躍する卒業生との交流会等の開催や市町と連携した健康増進活動を通して、地域に対する学生の関心を高める。 | Ⅲ    | COC+事業を推進するため、「地域指向型教育」を目指した映像教材の新たな活用プランを検討し、平成31年度に向けて導入準備を行った。具体的には本学のヒューマンヘルスケア科目の中で「地域創生概論」(e-learning)の聴講をすすめ、自学自習で実施する計画である。<br>5月の開学記念日に、県内で活躍する看護師・保健師・養護教諭を招いての講演会を開催し、仕事に対する具体的なイメージややりがいを感じてもらうとともに、市町と連携した健康増進事業では、能登北部能登町が行っている「猿鬼歩こう走ろう健康大会」への健康チェックコーナー担当、かほく市との包括連携協定の一環として取り組んでいるモールウォーキング事業などに学生の参加を促し、地域に対する学生の関心を高めた。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

Ⅲ 地域貢献に関する目標  
3 社会人教育の充実

中期目標 地域が求める人材の高度化・多様化に応え、生涯を通じた高度な知識の修得の場として教育内容を充実させるとともに、社会人が学びやすい環境を整備する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 31 | 看護キャリア支援センターの機能を活かし、新たな認定看護師の養成など看護職者のキャリア形成に貢献するとともに、実績を検証する。 | 31-1 | 認知症看護認定看護師教育課程及び認定看護管理者教育課程(サードレベル)を開講するとともに、ニーズ調査や専任教員確保の状況を踏まえて次年度以降の実施方針を検討する。また、修了生に対する資格取得状況調査や医療施設等における活動の実態調査、フォローアップ研修、ネットワーク構築支援を継続する。 | Ⅲ    | 認知症看護認定看護師教育課程及び認定看護管理者教育課程(サードレベル)を引き続き開講するとともに、北陸3県の病院、訪問看護ステーション、介護老人保健施設に対し認定看護師教育のニーズ調査を実施し、令和2年度に感染管理認定看護師教育課程を新たに開設することを決定した。<br>また、医療施設等における認定看護師の活動の実態調査と支援ニーズ調査、修了生に対する資格取得状況調査を実施するとともに、認知症看護フォローアップ研修(4/7)、認定看護管理者フォローアップ研修(4/8)、感染管理認定看護師フォローアップ研修(9/29)を実施した。フォローアップ研修や実践報告会の開催を通じて認定看護師のネットワーク構築支援を行った。 |

項目別実施状況

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

IV グローバル化に関する目標

中期目標 国境を越えた教育連携や国際機関との連携等により、国際交流や国際協力を推進するとともに、国際的に活躍できる人材を育成する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 32 | 海外研修の充実や国際交流の促進を図るとともに、学生の異文化理解を深める。             | 32-1 | 学生の異文化理解の促進や海外の保健医療福祉活動を広く学ぶため、海外大学との学術交流協定を推進し、学部生及び大学院生の海外研修の拡充を図る。また、アメリカ、タイ、韓国看護研修に対して、日本学生支援機構(JASSO)の留学資金支援を申請するとともに、アメリカ看護研修以外のタイ・韓国看護研修においても国際看護演習として単位化できるよう検討を行う。         | IV   | タイ及び韓国研修については現地研修の期間を延ばす等拡充を行い、事前学修に母国語講座を導入するなどの充実を図って単位化し、グローバル人材を育成する体制を強化した。<br>また、アメリカ及びタイ研修について、日本学生支援機構(JASSO)の留学資金支援を申請した。海外大学と学術交流協定に関する意見交換を行った。  |
| 33 | 英語教育の充実等により、学生及び教員の語学力の強化を図る。                    | 33-1 | 英語外部試験(TOEFL、TOEIC、英検等)の受験を学生に継続的に促すとともに、外部試験受験支援を含めた学生の英語教育のあり方や、海外研修希望者の意欲及び能力を向上させるための支援体制の拡充を検討する。また、国際的な学術交流の推進を視野に入れた教員の語学力向上支援体制(ワシントン大学等海外からの人材招聘や看護教育の中に英語を取り入れる等)を継続検討する。 | III  | ワシントン大学からの招聘教員と協働し、英会話セッション、講義、講演、コンサルテーションを通して本学教員や学生の英語力、英語論文作成力等向上のための支援を行った。その結果、学生が自主的に語学学習に向けた行動を起こす等の成果が見られた。<br>学生の英語外部試験の受験促進のため、英語授業および試験にTOEIC型の問題を増加させるなどの変更を行うとともに、費用や大学の授業との両立等の課題については、語学力推進ワーキンググループを立ち上げて改善を検討することとした。<br>教員の語学力向上支援体制として、本学英語教員による、教員向け英語セミナーを開催した。 |
| 34 | 国際協力機構(JICA)等の国際機関と連携し、積極的に海外から研修員等を受入れる事業を推進する。 | 34-1 | 国際協力機構(JICA)等の国際機関と連携し、日系研修及び青年研修等の海外からの研修員受入れ事業を積極的に推進する。また、研修員のニーズに対応できるよう実施方法の改善を検討する。   | III  | 国際協力機構(JICA)と連携して日系研修として、パラグアイから2名の研修生を受け入れた。また青年研修としてカンボジアから14名の研修生を受け入れた。<br>青年研修においては、研修生の5名が助産師であったことから、研修プログラム以外に、本学の母性看護学教員とフリーディスカッションの時間を特別に設けることで、両国の母子保健の現状について理解を深めた。  |



項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (1) 学士課程  
 ① 学生の受入れ

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | アドミッション・ポリシー(入学者の受入れ方針)に基づき、学生を確保する。高大接続改革に沿ってアドミッション・ポリシーを一層明確化し、入学者選抜方法を適切に設定する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|--|------|---|
| 35 | アドミッション・ポリシーに沿って、大学案内や募集要項、入試説明会等による積極的な広報活動を行う。          | 35-1 | 高校訪問や入試説明会、進学相談会等を通してアドミッション・ポリシーの周知を図るとともに、ホームページや募集要項、広報誌等を活用し、大学の特色や強み等について積極的に広報を行う。 | Ⅳ    | 高校訪問や入試説明会、進学相談会等を通してアドミッション・ポリシーの周知を図るとともに、ホームページや募集要項、広報誌等を活用し、大学の特色や強み等について積極的に広報を行った。また、次年度から導入するコース制については、内容をわかり易く解説した動画を制作し、説明会等で情報発信に努めるとともに、新コースの紹介サイトの作成及びウェブ広告を行い、県内・県外の受験生に広報を行った。さらに、高校の通知表渡し等の日に高校訪問を行い、生徒、保護者にコース制の内容を紹介する小冊子を直接配付するなど周知を図った。 |
| 36 | アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるため、入学者選抜方法や教育組織のあり方等について検討し改善を図る。 | 36-1 | 入試に関する検討ワーキンググループを立ち上げ、高大接続に伴う入学者選抜方法の改善等について検討を行う。                                      | Ⅲ    | 入試に関する検討ワーキンググループを立ち上げるとともに、県内の20を超える高校の代表者を招いて説明会を開催し、高校側の要望も把握しながら、高大接続に伴う入学者選抜方法について検討を行った。令和3年度以降の入学者選抜については、「一般選抜」と「学校推薦型選抜」を実施し現行の教科・科目および日程は変更しないこと、「国語」と「数学I・数学A」の記述式問題と民間英語検定試験は加点して評価すること、学力の3要素に基づき調査書を多面的・総合的に評価すること、などを公表した。                   |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (1) 学士課程  
 ② 教育の内容

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 社会ニーズに照らして、現行の教育課程の課題を把握し、大学の特色を活かした改善を図る。<br>カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)に基づき、アクティブ・ラーニング(能動的学修)の導入を進めるなど、効果的な方法で教育を行う。<br>ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に基づき、学生の学修成果を把握し、適正な成績評価により卒業を認定し、学位を授与する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 37 | 新たな農業環境や地域産業の変化に対応できる人材を養成するため、社会ニーズに照らして、教養教育、専門教育およびキャリア教育について4年一貫した方向性(カリキュラム・ポリシー)を策定し、シラバスに反映する。 | 37-1 | 新たな農業環境や地域産業の変化に対応するため、専門教育における6次産業化や植物工場生産等に対応したプログラムの導入と教養教育におけるICT教育及び英語教育の充実に向け、教育カリキュラム改定の検討を行う。   | IV   | 農業環境や地域産業の変化に対応するため、教育カリキュラムの改定を行うとともに、必要な知識をより体系的かつ効果的に学ぶことができるコース制を導入することを決定した。コース制は、従来の生産科学、環境科学、食品科学に加え、生産環境制御、6次産業化、里山活性化、先端バイオの新設4コースを含む7コースを設定した。<br>英語教育については、次年度から英会話授業の少人数化を決定し、ICT教育についてはパソコン等情報機器やソフトウェアの更新、Wi-Fiを利用できる教室の増などにより充実を図った。<br>資格取得の充実として、環境科学科において本年度から「鳥獣管理士」の受験が認められ、2級に4名、3級に7名が合格した。6次産業化コースでは「食の6次産業化プロデューサー」の受験資格も取得可能なカリキュラム編成とし、実施機関から正式に認証された。 |
| 38 | 教養教育、専門教育(各学科)、キャリア教育における各科目間のつながり(カリキュラム・ツリー)を明確にし、公開する。また、各科目間の連携を強化し、常に改善を図る。                      | 38-1 | 教育カリキュラムの改定に伴い、科目間のつながりを明確にしながらかリキュラム・ツリーを作成し、カリキュラムの体系化及び学生の体系的な学修の深化を図る。  | III  | 教育カリキュラムの改定に伴い実施する新設科目や専門固有科目のリニューアルに対して、科目間の繋がりを明確にしたカリキュラム・ツリーを作成した。   |
| 39 | アクティブ・ラーニングなどを導入して主体的な学修能力を育成するとともに、ディプロマ・ポリシーに沿って、成績分布のあり方などを検討して適正な成績評価法を確立する。                      | 39-1 | アクティブ・ラーニング型の授業を積極的に実践するとともに、反転授業やPBL(課題解決型学習)の導入に向けた検討を行い、学生の主体的な学修能力の育成を図るとともに、効果を検証するためPROG調査(社会人基礎力の測定)を実施する。<br>また、GPA制度を効果的に運用し、学生の適正な成績評価を行うため、ルーブリックを用いた評価方法の導入等について検討する。 | IV   | 社会に出て様々な課題に対応していく上で不可欠となる主体的な学習能力を育成するため、地域が抱える課題を実地で探求し解決策を検討するなどの課題解決型学習や、予習をさせ、授業で知識確認やアウトプットを行う反転授業を行うなどアクティブ・ラーニング型授業の充実を図った。また、前年度から3箇年計画で始めた学生の社会人基礎力の状況やその成長の度合いを測定し今後の教育に活かすPROG調査を1年生及び3年生に対して行った。さらに、一部の実験科目において評価にルーブリックを導入した。   |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (1) 学士課程  
 ③ 教育の成果

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 生物資源環境学に関わりの深い、農林水産業や製造業等の産業界、官公庁、大学等研究機関において自立した職業人、研究者として活躍できる人材を育成する。 |
|------|--|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 40 | 大学の教育理念および特色を踏まえ、学部の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を学生の視点に立って一体的に見直し、自立した職業人あるいは研究者として活躍できる人材を育成する。 | 40-1 | 学部の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)について、ポリシー間の整合性確保、高大接続に伴う改善、社会的要請を踏まえた経営戦略等を考慮して見直しを図る。 | Ⅲ    | 生物資源環境学の複合的な知識や技術を広く関連付けて修得し、それを実社会に活用できる人材の育成を基本教育方針とするとともに、3つのポリシー全てにおいて社会環境の変化を踏まえて導入を決定したコース制との関連を明確にしポリシー間の整合性確保も図った。   |
| 41 | 卒業生や企業を対象としたアンケート等を通して学部の教育成果を検証し、教育内容を改善する。   | 41-1 | 企業・卒業生・卒業予定者に対するアンケート調査を実施し、学生の学修成果及び職業人・研究者として必要な能力が育成されているかを分析・把握する。                                | Ⅲ    | 平成30年度に実施した企業アンケート及び卒業予定者アンケートを分析した結果、専門的知識の習得をはじめ総じて高い評価であったが、英語力や課題への対応力の習得については評価が低い傾向にあった。この結果を踏まえ、英語力については次年度より英会話の授業を少人数化して充実を図ることとした。また、課題への対応力等の修得に向けて、次年度からキャリア教育プログラムの設計・試行に取り組むこととした。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (2) 大学院課程  
 ① 学生の受入れ

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | アドミッション・ポリシー(入学者の受入れ方針)に基づき、社会人や留学生などを安定的に確保する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|--|------|--|
| 42 | アドミッション・ポリシーに沿って、大学案内、募集要項、入試説明会等を通して積極的な広報活動を行う。  | 42-1 | 大学案内を改定するとともに、ホームページや大学院リーフレット、入試説明会等を通して積極的に広報を行い、大学院生確保に努める。   | Ⅲ    | 大学案内の大学院のページに入試情報を加えるなどの改定を行うとともに、改良を行った大学院リーフレット及び入試概要を全国の国公立の関連大学204校に送付した。<br>また入試説明会等で大学院入学における特待生制度等について積極的に広報活動を行った。   |
| 43 | アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるため、入学者選抜方法について検討し改善を図る。また、推薦入学制度や特待生制度の活用など、優秀な人材を確保する方策について検討・導入する。 | 43-1 | 企業訪問の結果等も考慮し、アドミッション・ポリシーの見直しを図るとともに、学生及び社会人、留学生等の大学院への入学促進の方策や入学者選抜方法の改善を検討する。また、推薦入学制度や特待生制度を継続実施する。 | Ⅲ    | 早い時期からの意識付けが学生の大学院への入学促進に効果的であることから、2年生から博士前期課程への進学希望を募り、面接を通して適切な担当教員へのマッチングを行うことを、試行した。<br>また、生産科学科と環境科学科では3年生前期から研究室に所属し、卒業研究を前倒しで実施することで進学意欲の向上を図った。<br>アドミッション・ポリシーの見直しを検討するとともに、推薦入学や特待生、リサーチアシスタントなどの制度を継続実施した。また、大学院志向が高いと思われる進学校生徒の本学への関心を高めることを目的として、県内の高校の理科クラブの生徒を対象に実験・実習セミナーを本学にて開催した。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (2) 大学院課程  
 ② 教育の内容

中期目標 社会ニーズに照らして、大学院教育課程の課題を把握し、大学の特色を活かした改善を図る。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 44 | カリキュラム・ポリシーに沿った教育を実施するため、講義間の連携、講義・演習の充実を図るとともに、ディプロマ・ポリシーに沿って、修士・博士論文の評価法を検討する。 | 44-1 | カリキュラム・ポリシーの見直しを行い、講義間の連携及び講義・演習の充実を図る。また、県内他大学と単位互換協定に向けた検討を行う。さらに、論文の中間発表会を実施することで、研究内容及び成果を確認し、論文指導の充実を図る。           | Ⅲ    | 専攻長会議等でカリキュラム・ポリシーの見直しを検討するとともに、講義間の連携や実験、ポスター発表、英語でのプレゼンテーションなどにより講義・演習の充実を図った。また、環境科学科において、新たな領域、系で演習の実施を開始した。<br>金沢大学との単位互換制度について協定を締結するとともに、ウェブ講義の実施について検討を開始した。<br>論文の中間発表会を環境科学科は8月4日に、食品科学科は10月29日に実施し、指導を行った。なお、生産科学科においては大学院生が2名しかいなかったため中間発表会は行わず、個々に担当教員が指導を行った。 |
| 45 | 英語教育やキャリア教育、倫理に関する教育などの充実を図り、グローバル化に対応できる人材、しっかりとした職業観をもった人材、研究者として活躍できる人材を育成する。 | 45-1 | グローバル化に対応できる人材養成のため、大学院での英語による授業の一部実施など英語教育の充実を図るとともに、屏東科技大学(台湾)等と合同セミナーを実施する。また、キャリア教育の一環として、就職支援セミナーを大学院生向けに拡充して実施する。 | Ⅲ    | 植物分子機能学特論や環境分析学特論の授業の一部を英語で実施するとともに、9月3～6日に屏東科技大学など台湾の大学との合同セミナーを英語で実施(3名の大学院生、3名の学部学生が参加し、5題の論文を英語で発表)したほか、国際学会において英語でポスター発表をした大学院生がベストポスター賞を受賞するなど大学院生として必要な語学力の修得に努めた。<br>キャリア教育の一環として実施している就職支援セミナーについて自己分析、企業分析、就職活動のストラテジーを含め、これから社会人になるために必要な知識を提供した。                |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 1 教育の内容及び成果等  
 (2) 大学院課程  
 ③ 教育の成果

中期目標 高度な専門知識と能力を持ち、自ら新しい領域を開拓し、農林水産業や製造業等の産業界、官公庁、大学等研究機関において研究者として活躍できる人材を育成する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 46 | 大学の教育理念および特色を踏まえ、大学院の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を学生の視点に立って一体的に見直し、高度な知識と技術、倫理観を有する技術者・研究者を育成する。 | 46-1 | 専攻長会議において、大学院の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の見直しを行うとともに、RA(リサーチアシスタント)制度を活用し、研究補助を行いながら研究遂行能力及び倫理観の育成を図る。 | Ⅲ    | 大学院の3つのポリシーの見直しを検討し、学生が理解しやすい内容となるよう修正を行った。<br>また、RA制度を活用し、大学院生が学部の学生実験の補助や卒業研究の指導教員の研究調査の補助を行い、それらを通じて研究遂行能力及び倫理観を身に着けられるよう図った。   |
| 47 | 修了生を対象としたアンケート等を通して大学院の教育成果を検証し、教育内容を改善する。   | 47-1 | 企業・修了生・修了予定者に対するアンケート調査を実施し、大学院生の学修成果及び高度な知識と技術、倫理観が育成されているかを分析・把握する。   | Ⅲ    | 修了予定者に対し、3月上旬に実施したアンケートの分析結果から、在学中に9割の大学院生が国内の学会で1回以上の発表を行っており、2割の大学院生が研究成果を査読付きの論文として学会誌に掲載されるなど、研究者として必要とされる基本的な論文作成・発表能力が育成されていることが明らかになった。<br>また、「大学院生自身が大学院での学修を通じて育成されたと考える能力・資質」に関する質問では、データ収集能力、研究の計画・遂行能力、プレゼン能力、創造性などの項目について80%超の大学院生が身についた、もしくはある程度身についたと回答した。さらに企業を対象としたアンケートを3月に実施しており、今後、分析を行うこととしている。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (1) 教育の実施体制

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 教育目標を効果的に達成するため、学士課程においては、教育研究指導力の優れた教員を確保して適切に配置し、適切な教育体制を構築するとともに、大学院課程においては、専攻分野の専門性を高めると同時に、研究指導や教育支援体制の改善に努め、教育研究指導を充実させる。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|--|------|--|
| 48 | カリキュラム検討委員会、専攻長会議、教務委員会、教養教育センター、キャリアセンター等が連携して組織的かつ効果的な教育を実践する。                       | 48-1 | 教養教育センターにおいてICT及び英語教育の充実、カリキュラム委員会において6次産業化や植物工場生産等に対応したプログラムの導入に向けた検討を行う。 | IV   | ICT教育充実のための機器の更新を行うとともに英語教育の充実のため次年度から英会話授業の少人数化を決定した。<br>また、農業環境や地域産業の変化に対応するため、教育カリキュラムの改定を行うとともに、必要な知識をより体系的かつ効果的に学ぶことができるコース制を導入することを決定した。 |
| 49 | 大学の中長期計画(あり方委員会の答申)に基づいて学科・専攻・系のあり方について検討し、適切な教育組織を構築する。また、教育組織を効果的に運用するため、適切な教員配置を図る。 | 49-1 | ICT及び英語教育の充実や、6次産業化及び植物工場生産等に対応したプログラムの導入等の教育カリキュラムの改定に向けて、教育実施体制の見直しを図る。  | IV   | 英語教育の充実のため、次年度から非常勤講師を活用して、英会話授業の少人数化を行うとともに、専門教育の教育カリキュラムの改定に向けて、施設・設備の拡充、整備や新分野の教員採用、他学科科目の活用、環境科学科における領域の再編成など教育実施体制の見直しを行った。               |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (2) 教育活動の点検評価・改善

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 中期目標 | 教育活動を点検評価し、評価結果に基づき教育活動の改善を図る。 |
|------|--------------------------------|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 50 | 授業評価アンケート、卒業生・修了生・企業アンケートや教員自己評価などに基づき、教育活動を点検し、その結果を教育活動の改善に反映するための方策を検討し、実施する。 | 50-1 | 学生の授業評価アンケート、企業及び卒業生に対するアンケート調査を実施し、教育活動の点検・評価を行う。<br>また、PROG調査の結果を踏まえて、学生のコンピテンシー向上を図るためのカリキュラム改善についてカリキュラム委員会で検討する。 | Ⅲ    | 今年度実施した授業評価アンケートでは、講義の総合的な満足度について、学部においては約8割、大学院においては約9割の学生が「とても満足」又は「やや満足」という評価であった。また企業アンケート及び卒業予定者アンケートの結果や、PROG調査の結果等を踏まえて、英会話授業を少人数化して充実を図るとともに、アクティブ・ラーニング等の継続に加え、キャリア教育プログラムの設計・試行により学生のコンピテンシーの向上に取り組むこととした。 |



項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (3) 教員の教育力の向上

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 教員の教育力の改善と向上のため、教育研究環境の整備を行うとともに、授業の改善に向けたファカルティ・ディベロップメント(組織的に行う教員の教育力開発活動)を充実する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|---|------|---|
| 51 | ファカルティ・ディベロップメント研修の開催など、教員の教育力向上のための取り組みを充実させるとともに、ICTを活用した効果的な教育方法を検討し、実施する。 | 51-1 | 教育手法や教育評価法、ハラスメント防止等に関するFD(ファカルティ・ディベロップメント)セミナーを開催するとともに、ICTを活用した効果的な教育の実施に向けて、必要な機器や設備の充実を図る。 | Ⅲ    | 大学入試改革や学生の主体的な学びを促す授業の工夫に関して看護大学との共同開催を含めてFDセミナーを5回開催した。またICTを活用した効果的な教育の実施に向けて、パソコン等情報機器やソフトウェアの更新、Wi-Fiを利用できる教室の増など環境の充実を図った。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標
- 2 教育の実施体制等
- (4) 教育環境の整備

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 中期目標 | 学生の学修意欲や教育効果の向上を図るため、学生の学修環境を適切に整備する。 |
|------|---------------------------------------|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 52 | 講義室・実験実習室、講義・実験実習資材や学内LAN、ラーニング・commonsなどハード、ソフトの両面から正課教育の環境を整備する。 | 52-1 | 学生の学修環境を充実させるため、実習室等の情報機器及び教育研究ソフトを改善するとともに、ラーニングcommonsの充実に向けて他大学の事例を調査する。 | Ⅳ    | 次年度からコース制を導入するため、必要な実習機器や新設コースで使用する実験実習棟を整備するなど、教育施設・設備の拡充を図った。情報機器の更新計画に基づき実習室等のパソコン・プリンターの更新を行うとともに、新規ソフトを導入する等の改善を行った。食堂横のラーニングcommonsについて、利用状況の改善に向けて検討を行うとともに、図書情報センターなどでの設置に向け情報収集を行った。 |
| 53 | 体育館、サークル室、自主学修施設の整備・充実と併せて、学生自治会などと連携して正課外活動の充実を図る。                | 53-1 | 体育館、サークル室、自主学習施設の定期点検を行い、必要に応じて修繕を実施するとともに、後援会による正課外活動の財政的支援を行う。            | Ⅲ    | 体育館、サークル室、自主学習施設の定期点検を行い、必要な補修を行った。また、学生自治会からの申請により後援会と連携して部活動・サークルなどの正課外活動への財政的支援を行った。   |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

I 教育に関する目標  
3 学生への支援  
(1)学修支援

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 学生が自主的、能動的に学ぶ意欲を高める方策を導入するとともに、学修・生活・就職・進学に関する疑問や悩み等を相談できる支援体制を強化する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|---|------|---|
| 54 | スチューデント・アシスタントやティーチング・アシスタント制度を積極的に活用して、学生同士の学び合いの機会を増やすなど、学生が自主的、能動的に学ぶ意欲を高めるための方策を検討し、実施する。 | 54-1 | SA(スチューデント・アシスタント)やTA(ティーチング・アシスタント)制度を学生に広く周知し、対象となる学生に研修を実施するなど、学生が主体的に学修・研究する意欲を高めるための方策を検討する。 | Ⅲ    | 修士学生だけでなく4年生にもSAやTA制度を周知し、2年生または3年生の学生実験の実験補助員として活用することにより、学ぶ意欲を高めるなどの学修効果を図った。   |
| 55 | サークル活動、ボランティア活動など正課外活動を支援する体制を充実する。   | 55-1 | サークル活動やボランティア活動などを円滑に行うことができる支援体制を検討するとともに、学生の模範となる成果をあげた個人・団体に対して学長賞を授与する。                       | Ⅲ    | ボランティア活動を支援するために、学生支援事業の要領を見直し地域貢献活動の助成金の支給範囲と額を拡充した。また、学生の模範となる成果をあげた個人・団体に対し学長賞を授与した(4個人、1グループ)。  |
| 56 | 学修に関する悩み、生活上の悩みなど様々な相談が気軽にできる体制を整備するとともに、それらの相談を効果的に解決するための組織的、一体的な体制を構築する。                   | 56-1 | 全学生を対象とした学修や生活、ハラスメント防止対策等についてのアンケート調査を実施し、支援体制の充実について検討する。また、職員を対象とした学生支援に関する研修を実施する。            | Ⅲ    | 後期オリエンテーションにおいて、全学年を対象とした学修や生活、ハラスメント防止対策についてのアンケート調査を実施した。アンケート結果を踏まえ、学生の全般的な相談を受け、対応するための体制について検討するとともに、その流れをフローチャートに示し周知した。また、本学教職員に加え、外部のカウンセラー(臨床心理士等)による支援についても隔週で実施していたものを次年度より毎週実施することとした。また、職員を発達障害に関する外部セミナーに派遣するとともに、関係教職員で内容共有を図った。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

I 教育に関する目標  
3 学生への支援  
(2)進路支援

中期目標  
就職、キャリア形成支援を強化する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|--|------|---|
| 57 | インターンシップや就職ガイダンスなど就職支援活動の内容を常に検討し改善を図るとともに、卒業生との情報交換や交流を通して就職活動をサポートする体制を構築する。 | 57-1 | 引き続きキャリアセンター運営会議において、これまで実施してきたインターンシップや就職ガイダンスなどの就職支援活動を評価し、就職ガイダンスの実施形態や内容の変更など、改善策について検討する。また、企業担当者や卒業生等との交流機会を設けることで、就職支援の充実を図る。 | IV   | 後期に卒業予定者を対象に実施した「就職と進学についてのアンケート」を分析し、インターンシップ、就職支援セミナーなどの就職支援活動についての評価を行った。<br>また、学生から好評を得た就職支援セミナーや、後輩へのアドバイスなどの卒業予定者の声を取りまとめ、学生情報システム(キャンパスメイト)で公開した。<br>さらに、新たに公務員試験対策講座を実施したほか、同窓会と連携して就職ガイダンス「就活Café」を響緑祭(大学祭)で開催し、卒業生の経験談を聞く機会や卒業生が個別相談を行う場を提供するなど就職支援の充実に努めた。また、学生のキャリア形成支援の強化に向け、次年度よりキャリアコンサルタントを配置することとした。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- I 教育に関する目標  
 3 学生への支援  
 (3) 社会人・留学生等への支援

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 社会人・留学生等の受入れ体制の充実を図るとともに、学修・研究支援の在り方を改善し充実する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 58 | 社会人学生については、勤務と学修・研究活動を両立するための方策を検討・改善する。       | 58-1 | 前年度実施した県内企業や公設試験場等に対する訪問調査の結果を踏まえ、学修・研究支援の在り方について検討する。                              | Ⅲ    | 社会人の大学院入学に関しては、本人が所属する企業や自治体によって、人事異動や業務上の事情に伴う場合もあることから、柔軟な選択が可能となる4月・10月入学制を継続・実施した。また、受入時期や期間、研究内容についてより多様な選択が可能となる客員研究員の受入についても継続・実施した。  |
| 59 | 留学生については、受入体制の充実を図るとともに、学修・生活面の相談窓口・支援体制を整備する。 | 59-1 | 留学生の受け入れに対する問題点を整理し、受入体制の整備を図るとともに、チューター制度の継続や留学生向け奨学金の紹介など留学生が学びやすい環境づくりに向けた検討を行う。 | Ⅲ    | チューター制度を継続し、留学生1名に対して同制度による支援を行った。また、留学生支援の一環として、野々市市の国民健康保険助成制度の申請サポートや留学生の住居確保に際し大学が賃貸契約の保証を行う等の支援を行った。<br>日本学生支援機構や県の留学生向け奨学金は、留学生が一定数以上の大学を対象としており、本学は対象外の状況にある。このことを踏まえ、本学独自で可能な支援策として、留学生についても授業料減免の対象とすることについて検討を行った。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- II 研究に関する目標  
1 研究の水準、方向性及び成果

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 先進的・独創的な基礎研究・応用研究による人類共通の課題解決及び知的財産の創造に貢献するとともに、地域資源を活かした地域の課題解決や、社会ニーズを適切に反映した産業支援など、地域の発展に貢献する研究を行い、その事業化などに努め、研究成果を公表する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 60 | 人類共通の知的財産の創造に貢献するための基礎研究を強化する。   | 60-1 | 3つの学内横断研究(「石川県地球規模食糧増産」「石川県健康寿命延伸」「石川の自然と生物」)を推進し、大型の外部資金獲得を図るとともに、短期的に成果が挙がる応用研究のみならず、長期的戦略を持った基礎研究を展開する。  | III  | 大型の外部資金の獲得に向け3つの学内横断研究(「石川県地球規模食糧増産」「石川県健康寿命延伸」「石川の自然と生物」)を推進した。<br>また、従来から取り組んできた生物や環境に関する基礎研究を継続的に実施した。  |
| 61 | 各研究組織(各学科・生物資源工学研究所・教養教育センター・附属農場)および各教員による先進的・独創的な基礎研究・応用研究によって人類共通の課題や地域の課題を解決するとともに、産業支援など地域の発展に貢献する。 | 61-1 | 各学科において、農業生産・環境・食品分野の技術開発等に貢献する基礎研究および応用研究を推進する。また、生物資源工学研究所において、バイオテクノロジーに関する先進的な研究に対する人的・設備的な支援を行い地域産業の活性化に貢献するとともに、附属農場において、耕地や温室施設等のフィールドを活用した研究を通して地域の農業生産に関する課題解決に貢献する。 | III  | (生産)能登牛の安定生産に貢献する胚の実用的な超低温保存技術の開発や、地域の農業生産に貢献する地域飼料資源「もやし残渣」を活用したラム肥育用飼料の開発を行った。<br>(環境)環境保全に貢献する使用済み脱硫触媒から発生する脱リンスラグの肥料効果の検証や、人と野生鳥獣の共存のためクマの市街地侵入経路の特性解明に関する研究を行った。<br>(食品)新たな技術開発に貢献するダイズの食物繊維に含まれるイソフラボンによるマウスの接触過敏症抑制効果についての研究や、山廃酒母において乳酸菌が菌叢における支配的菌種になるための要因についての研究を行った。<br>(資源研)i-BIRD内企業を中心に、遺伝子組換え実験の安全性確認、定量PCRやセルソータなど先端機器の使用や超純水の提供等の支援を行った。<br>(農場)附属農場の耕地と温室施設等を利用し、ルビーロマンの着色不良改善法の開発や、夏期のハウレンソウやトマトへの遮熱資材被覆の効果を検証し、課題解決に貢献した。 |

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| 62 | 研究成果のホームページ等による積極的な発信、公開講座や公開セミナーの開催により研究成果を地域や社会に還元するとともに、いしかわ大学連携インキュベータを活用した研究成果の事業化をはじめとする共同研究を推進する。 | 62-1<br>ホームページや広報誌、公開セミナーに加え、新たに大学紀要を発刊し、地域や社会に対して研究成果を積極的に発信する。また、石川県産業創出支援機構(ISICO)、いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)等と連携したシーズ発表会の開催や「研究シーズ集」等の発刊を通して、ニーズとシーズのマッチングによる研究成果の事業化や共同研究を推進する。 | Ⅲ<br>石川県産業創出支援機構(ISICO)、いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)と連携したシーズ発表会を9月26日に開催するとともに、「研究シーズ集」等の発刊を通して、ニーズとシーズのマッチングによる研究成果の事業化や共同研究を実施した。また11月30日に食品科学科公開セミナーを、12月2日に里山活性化シンポジウム、1月10日に公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)との共同セミナーを開催するなど、研究成果の積極的な発信に努めた。大学紀要については、創刊号を9月に発刊した。 |
|----|--|---|---|

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

II 研究に関する目標  
2 研究の実施体制

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 効果的な研究活動を遂行する体制を整備するとともに、他大学との共同研究や産学官連携等の充実を図るための体制を強化する。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 63 | 研究組織を常時点検して効果的な研究活動を遂行する体制を整備するとともに、国内外の大学や研究機関との共同研究、産学官連携、地域との連携の充実を図るための体制を強化する。また、研究成果の質的評価法について検討する。 | 63-1 | 国内外の大学や研究機関との共同研究を推進するとともに、学内横断研究等を通して、学内においても共同研究を推進する。また、石川県産業創出支援機構(ISICO)やいしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)等との連携強化を図る。 | III  | 国内外の大学や研究機関との共同研究を推進した(金沢大学、京都大学、広島大学、浜松医科大学、京都府立医科大学、国立遺伝学研究所、県工業試験場、県農業試験場など)。全学的に取り組む3つの研究プロジェクト(石川発地球規模食糧増産、石川発健康寿命延伸、石川の自然と生物)を中心に、学内の共同研究を推進した。<br>9月26日に石川県産業創出支援機構(ISICO)やいしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)と連携して、共催セミナー「食品の安全性と農業の省力化を目指して」を開催した。開催にあたっては、実施場所の変更やテーマをHACCPやIoTに絞るなどにより、参加者の増加に努めた。<br>また、1月10日に公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)と連携し、共同セミナー「輸出競争力のある お酒の開発に向けてー現状と課題、及び北陸での展開ー」を開催した。 |
| 64 | 教員評価に基づく研究費の配分法について検討し、効果的に配分する。  | 64-1 | 教員評価結果を研究費の配分に反映するとともに、教員評価方法及び研究費への反映方法の改善検討を継続的に行う。  | III  | 教員評価結果を研究費の配分に反映するとともに、教員評価方法及び研究費への反映方法の改善検討を継続的に行った。具体的には、外部資金の申請実績及び獲得実績を教員評価に反映するとともに、教員評価を基にA~Cのランク分けを行い、A評価教員に対しては研究費を10%増、C評価教員に対しては研究費を10%減とする配分を行った。  |
| 65 | 効果的な研究活動を遂行するため、教員配置について検討する。   | 65-1 | 3つの研究プロジェクト(石川発地球規模食糧増産、石川発健康寿命延伸、石川の自然と生物)を中心に研究協力体制を発展させ、共同研究の推進を図る。   | III  | ブランディング研究の確立を目指して、全学的に取り組む3つの研究プロジェクト(石川発地球規模食糧増産、石川発健康寿命延伸、石川の自然と生物)を中心に、学内外との共同研究等の協力体制の強化に努めるとともに、学内資金及び外部資金を活用し、共同研究を推進した。   |



項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

Ⅲ 地域貢献に関する目標  
1 地域における産学官連携の推進

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 県内の企業や県、市町、他大学、研究機関、地域等と連携し、研究を通して地域が抱える課題の解決と地域の活性化、地域産業の発展に貢献する。 |
|------|--|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|--|------|--|
| 66 | 地域が抱える様々な課題の調査・研究や地域の特性を活かした研究を通して地方創生を推進するとともに、地域産業の活性化、地域文化の継承、地域環境の保全等、持続可能な社会の発展に貢献する。 | 66-1 | 県内企業や行政等と連携し、各学科で農業生産・環境・食品分野の技術開発や地域環境の保全等に貢献する研究を推進する。また、生物資源工学研究所では、バイオテクノロジーに関する先進的な研究を人的・設備的な支援を行い地域産業の活性化に貢献する。附属農場では、耕地や温室施設等のフィールドを活用した研究を通して地域の農業生産に関する課題解決に貢献する。   | Ⅳ    | (生産)地域活性化に向けて耕作放棄地でのヒツジ放牧生産に取り組んだ。石川県農林総合研究センターとドローンを活用したイネおよびダイズの生育量の推定法確立に係る共同研究を推進した。<br>(環境)手取川濁水現象の解明のため、林野庁、国土交通省、白山市などに情報提供を行った。<br>(食品)野々市市特産品(ツバキとヤーコン)や能美市特産品(ハトムギ)などの健康増進効果に関する研究を推進した。<br>(資源研)「エアリーフローラ」ウイルス抵抗性品種の育成を県農業試験場との共同研究として実施した。また、鉄や亜鉛といったミネラル栄養価の高いコメを開発し、植物工場での栽培を行うことを目的とした共同研究を地元企業と実施した。<br>(農場)柳田地区山村活性化協議会との共同プロジェクトである能登キリシマツツジの開花調節を行った。 |
| 67 | 産学官連携学術交流センターの機能を活かし、他大学、石川県産業創出支援機構、いしかわ大学連携インキュベータなどとの連携を強化する。                           | 67-1 | 大学間連携を強化するため、県内大学との包括連携協定締結に向けた検討を行うとともに、北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)等と連携して産学官マッチングイベントへの出展を行う。また、石川県産業創出支援機構(ISICO)及びいしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)等と連携し、シーズ発表会や公開セミナーの開催を通して研究シーズの発信に努める。さらに、大学コンソーシアム石川や能登キャンパス構想推進協議会との連携、「石川県における世界農業遺産を通じた国際貢献プログラム」の活動を通して、地域の課題解決等に取組む。 | Ⅲ    | 県内大学との包括連携協定締結に向けた検討を進めるとともに、「BioJapan 2018」、「アグリビジネス創出フェア2018」、「Matching HUB Kanazawa 2018」等への出展を行った。石川県産業創出支援機構(ISICO)、県内の食品技術研究者ネットワーク等と連携し、公開セミナーを実施した。なお本年度はさらに、新たな取り組みとして金沢市主催のシーズ発表会にも参加した。また、大学コンソーシアム石川、石川県における世界農業遺産を通じた国際貢献プログラム、能登キャンパス構想推進協議会と連携し、地域の課題解決等に取組んだ。  |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

Ⅲ 地域貢献に関する目標  
2 地域人材の育成と定着の促進

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 農林水産業、製造業などの地域産業の発展、地域環境の管理・保全に貢献するため、高度な専門的知識を修得した地域人材を育成するとともに、地域住民や卒業生との積極的交流により地域産業支援拠点としての役割を果たす。 |
|------|--|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 68 | 大学独自の地域交流の取り組みおよび大学コンソーシアム石川と連携した取り組みを通して、学生の様々な地域事業への参加やボランティア活動などを推進し、地域の活性化に協力する。                      | 68-1 | 大学コンソーシアム石川の「地域課題研究ゼミナール支援事業」等を通して、地域住民と協働で地域の課題解決のための活動を行うとともに、学生支援事業の助成金を活用し、地域行事への参画など地域交流活動を支援する。            | Ⅲ    | 「羊放牧による耕作放棄地の発生防止及び羊の肉・乳・毛等を活用した特産品の開発」が大学コンソーシアム石川地域課題研究ゼミナール支援事業に採択され、地域の課題解決のための活動を行った。また、大学独自の取り組みとしてヒツジの飼育を通じて畜産技術を学習しており、耕作放棄地を有効活用するため放牧を行った。<br>このほかに、本学を含む県内の4大学と奥能登4市町及び県で構成する能登キャンパス構想推進協議会の活動として、学生が能登の祭りの担い手として参加し、また当該地域の自治体や企業が取り組む地域課題解決活動にインターンシップとして参加するなど地域交流活動を実施した。 |
| 69 | 地方創生推進事業(COC+)の一環として、石川の産業や文化等を学ぶ「地域指向型教育」を授業に盛り込むとともに、地域企業に対する理解を深める「共創インターンシップ」を通して、地域の発展を担う学生の地元定着を図る。 | 69-1 | 県内他大学とともに地方創生推進事業(COC+)を推進し、石川県の産業や文化等に関する映像教材を使った「地域指向型教育」を実施するとともに、県内企業等と連携した「共創インターンシップ」を実施することで、学生の地元定着に努める。 | Ⅲ    | 地方創生推進事業(COC+)の「地域指向型教育」として、石川県の農林水産業各分野について、自然、歴史、気候等と関連させて学習する授業を実施した。共創インターンシップとして白山市白峰地域において、当該地域の現状や生活環境を実地で学び、地域の維持、活性化について考えるプログラムを実施した。<br>このほかに、学外実習として加賀、能登、金沢、白山地区の食品関連企業や農業法人、自治体を訪問して見学や意見交換等を実施した。   |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

Ⅲ 地域貢献に関する目標  
3 社会人教育の充実

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 地域が求める人材の高度化・多様化に応え、生涯を通じた高度な知識の修得の場として教育内容を充実させるとともに、社会人が学びやすい環境を整備する。 |
|------|---|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|--|------|---|
| 70 | 大学院にあつては県内の社会人を積極的に受入れるとともに、公開講座や出張講義を通して地域における教育活動を広く展開する。 | 70-1 | 石川県農林総合研究センターや県内企業等との共同研究を通して社会人の大学院への入学を勧めるとともに、公開講座・出張講義計画を策定し、社会人に対する教育活動を積極的に実施する。 | Ⅲ    | 学長その他の教員の公的研究機関や会社訪問に際し、社会人入学の制度を紹介し入学を勧めた。自然人間共生科学専攻大学院後期課程(10月入学)において、社会人1名が合格した。<br>公開講座として、「学校と教育のリアル」(12/1)、食品科学科公開セミナー「食品の安全性研究～過去、現在、未来～」(11/30)、環境科学科のシンポジウム「里山ルネッサンスー里山活性化担い手の育成に挑戦」(12/2)を開催した。 |

項目別実施状況

石川県立大学の教育研究等の質の向上に関する目標

IV グローバル化に関する目標

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 国境を越えた教育連携や共同研究等により、国際貢献を推進するとともに、積極的な海外留学の促進や外国人留学生の受入れにより、国際的に活躍できる人材を育成する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|--|------|---|
| 71 | 国際学会への積極的な参加・参加、国際学術誌への積極的な投稿により、研究成果を広く海外に向けて発信・公開する。     | 71-1 | 国際学会への参加および国際学術誌への投稿を積極的に行うとともに、それらの実績を集計し、研究成果の海外に向けた情報発信を活性化するための方策を検討する。                      | Ⅲ    | 研究成果の海外に向けた情報発信を活性化するため、前年度に引き続きGoogl Scholar引用の推奨を行うとともに、国際会議での発表件数を教員評価に反映させた。<br>(生産)国際学会に1名が参加・発表し、国際学術誌に9件掲載された。<br>(環境)国際学会に5名が参加・発表し、国際学術誌に11件掲載された。<br>(食品)国際学会に1名が参加・発表し、国際学術誌に16件掲載された。<br>(資源研)国際学会に2名が参加・発表し、国際学術誌に28件掲載された。<br>(農場)国際学会に1名が参加・発表し、国際学術誌に6件掲載された。 |
| 72 | 海外大学との交流・連携を強化するとともに海外留学や外国人留学生の受入れを推進し、国際的に活躍できる研究者を育成する。 | 72-1 | 海外の学術交流協定締結大学との交流を発展させるため、屏東科技大学(台湾)等と合同セミナーを実施するとともに、海外からの留学生や研究生受入れを推進するため、新たな交流協定締結に向けた検討を行う。 | Ⅲ    | 屏東科技大学(台湾)と合同セミナーを日本で実施するとともに、海外からの留学生や研究生受入れを推進するため、ランシット大学(タイ)との連携について意見交換を行った。また、本学大学院博士後期課程生物機能開発科学専攻に国費(日本政府)留学生1名(アルゼンチン出身)を受け入れた。生物資源工学研究所では、インドネシアからの短期留学生を研究科特別研究生として受け入れた。  |

|    |  |      |  |   |  |
|----|--|------|--|---|--|
| 73 | 英語教育の充実、積極的な海外留学や外国人留学生の受入れなどを通して異文化理解を深め、国際的に活躍できる人材の育成を図る。 | 73-1 | 文部科学省の留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」及び本学の学生支援事業の助成金を活用し、学生の留学や国際学会での発表、海外大学で開催されるセミナー等への参加を促進するとともに、海外からの留学生との交流等を通して、異文化理解・国際理解を深めるための教育方法について検討を行う。また、英会話授業の少人数化やCALLシステム(語学学習システム)の活用など、英語教育を充実させる。 | Ⅲ | <p>「トビタテ！留学JAPAN」を活用し、学生2名(院生1名、学部生1名)が、韓国及びラオスに留学した。</p> <p>学生の留学や国際学会での発表を促進させるため、本学の学生支援事業の周知を図るとともに留学希望者には個別で相談にのり、申請書の添削やプレゼン方法等の指導を行った。また、国際会議で研究成果を英語で発表する学生に対しては、担当教員による英文指導のみならず米国人英語教員による口頭発表指導を行った上で、参加させた。</p> <p>CALLシステム(語学学習システム)については、ハードウェア及びソフトウェアの更新を行うとともに、来年度から英会話授業の少人数化を決定し、英会話教育の充実を図った。</p> |
| 74 | 国際協力機構(JICA)等の国際機関と連携し、積極的に海外から研修員等を受入れる事業を推進する。             | 74-1 | 国際協力機構(JICA)等の国際機関や文部科学省、留学生支援団体を通して、海外からの留学生および研究生、研修員の受け入れを積極的に行う。   | Ⅲ | <p>国際協力機構(JICA)支援事業として、中央省庁、地方自治体等で産業振興に携わる行政官・地方商工会等の民間経済団体職員を対象とした「地域の特色を活かした産業振興研修」を7月20日に本学にて実施した。(8カ国(アフガニスタン、アルバニア、コンゴ、ドミニカ共和国、ブータン、マケドニア、ミャンマー、東ティモール)10名が参加)</p> <p>また、9月4日に青年研修の一部を本学にて実施した。(9ヶ国(エジプト、リベリア、マラウイ、ナイジェリア、ルワンダ、スーダン、南スーダン、タンザニア、ウガンダ)12名が参加)</p>   |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

- I 運営体制の改善に関する目標  
1 ガバナンス機能の強化

中期目標 理事長が中心となって、大学の強みや特色を活かし、教育、研究、地域貢献等の機能を最大化できるガバナンス体制を構築するとともに、インスティテューショナル・リサーチ(大学の客観的な状況調査)を踏まえ、大学の将来を見据えた経営戦略を立案する。また、大学において、学長がリーダーシップを発揮しやすい体制を整備する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 75 | 理事長及び学長のリーダーシップの下で、戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制を構築し、経営審議会や教育研究審議会等を通して機動的に大学改革を進める。 | 75-1 | 大学改革を推進するため、学長補佐を配置のうえ大学改革の諸課題を各審議会及び委員会で検討し、決定事項を大学全体で共有するなど、内部統制の体制を強化する。 | IV   | <p>(看護大)<br/>本年度から大多数の委員会を少人数体制とし、教員の学内運営の負担軽減を図るとともに、領域・講座代表が必ず委員となっている教育研究審議会を通じて重要課題や委員会活動実績の大学全体で共有する体制を強化した。また学長が招集する教員全体会議を活用し、全員による意見交換や、学内の意見のボトムアップ、多様な意見の取り込みなどを引き続き実施した。大学改革としてグローバル人材育成プランを明示し、さらに5年計画の看護学部の基礎科学教育充実に向けたアクションプラン、広報改革アクションプラン、図書館拡充プランを示し全教職員に周知した。</p> <p>(県立大)<br/>教養教育に関しては、教養教育センターで検討した英会話授業の少人数化を来年度から実施することとした。また、情報委員会メンバー及び事務関係者等により、IT機器整備に関する具体的計画を策定・実行した。<br/>専門教育に関しては、学長補佐会議において、カリキュラム改定に際し、外部有識者の意見聴取を行うことを決定し、カリキュラム策定の参考とした。またコース制の導入に伴い、コース長を新たに任命し責任体制を明確化して、施設設備の整備やカリキュラム策定を進めた。<br/>教育方法に関しては、教育研究学内プロジェクトにおいて課題解決型の教育や反転授業により主体的学びの推進に取り組んだ。</p> |

|    |   |      |   |   |  |
|----|---|------|---|---|--|
| 76 | 理事長の責任において、予算等の経営資源を効果的に配分する。                           | 76-1 | 予算配分、人員配置等については、理事長の責任において、既存の体制にとらわれず機動的に行う。   | Ⅲ | 理事長裁量経費を活用し、学生の要望に応じた施設整備の実施や両大学の共同研究助成の実施など機動的に事業を推進した。                               |
| 77 | 大学に求められる社会的ニーズや学生にとっての魅力向上策等を分析し、大学の将来を見据えた経営戦略を企画立案する。 | 77-1 | 中期計画の着実な推進及び教育等の継続的な改善に資する大学IR(インスティテューショナル・リサーチ)を試行するとともに、大学の将来を見据えた教育研究の方向性及び行動計画を検討する。 | Ⅲ | 大学IRを試行するため実施体制を整備し、調査、分析を行うための課題の整理や具体的な調査方法の検討を行うとともに、大学の将来を見据えた教育研究の方向性及び行動計画を検討した。 |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

- I 運営体制の改善に関する目標  
2 事務組織等の整備と効率化

中期目標 事務組織等を整備し、事務職員の専門性を高めるとともに、情報システムの活用や業務の外部委託等の推進により、効率的で生産性の高い事務処理を図る。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 78 | 事務職員の専門性を高めるため、学内外の研修への積極的な参加を通じたスタッフ・ディベロップメント活動を行う。併せて、職員間の連携を図るなど、情報共有・情報伝達の機能を強化する。 | 78-1 | 職員を外部のセミナーや業務説明会へ派遣し、大学運営に関する専門性の向上を図るとともに、グループウェア等を活用し、職員と教員間等の情報共有を推進する。           | Ⅲ    | (看護大)<br>大学認証評価事務や科学研究費助成事業、大学入学者選抜に関する説明会等に職員を派遣し、円滑な事務処理に努めるとともに、説明会等で得た情報について、速やかに学内に周知し情報共有を図った。<br>(県立大)<br>職員の大学運営に関する専門性の向上を図るために、公立大学協会などの学外の研修への積極的な参加を促すとともに、教職員を対象とした大学入試改革の状況等に関するセミナーを開催した。<br>(共通)<br>GPAデータを管理できるよう学生情報システムを改善し、事務の効率化を図った。   |
| 79 | 効果的な事務組織等のあり方について検討・整備するとともに、情報システムの活用や外部委託等の推進により、更なる業務の効率化を図る。                        | 79-1 | 職員からの意見聴取等を通して、業務分担の適正化や外部委託の検討等、事務組織の体制整備を行うとともに、情報システム(学生情報システム等)の更新を行い、業務の効率化を図る。 | Ⅳ    | (看護大)<br>職員からの意見聴取を実施(年3回)し、局長・課長会議を経て業務分担の見直しを行い体制整備を図った。具体的には、ストレスチェックの結果や時間外労働時間の実績を踏まえ、総務課の事務の一部を教務学生課の分担とするなど業務分担の見直しを実施した。また、ホームページや大学新聞、大学案内の広告業者を一元化し、広報の充実と事務の効率化を図った。<br>(県立大)<br>臨時職員の配置及び分担業務の一部見直しを行い、正規職員が企画立案業務に注力できる体制整備を行った。また、ウェブシラバスの導入、グループウェアを活用した備品管理などを実施した。さらに、成績証明書や学割証等の証明書自動発行機を導入し、対応時間帯も従来より拡充することで、事務の効率化及び学生の利便性双方の向上を図った。<br>(共通)<br>学生情報システム等の更新を行うとともに、ウェブ出願の導入に向けて検討を行った。 |



項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

- I 運営体制の改善に関する目標
- 3 両大学間の連携強化

中期目標 1つの法人が2つの大学を運営することを踏まえ、両大学間の情報共有を図るとともに、共同研究等の実施に向け、教員相互の交流を図る。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 80 | 理事長、両学長、両事務局長等による定期的な会議の開催等により法人本部及び両大学間の意思疎通を図るとともに、教員相互の交流を促進し、相互理解を深める。また、法人本部は両大学の課題解決を支援する。 | 80-1 | 看護大学と県立大学の共同研究を推進し、合同研究発表会を開催するとともに、両大学合同のFD(ファカルティ・ディベロップメント)研修を開催する等、教育交流も推進する。また、役員連絡会・事務局長会議を定期的で開催し、法人本部及び両大学間の意思疎通を図るとともに、非常勤講師や外部委員等、教員の相互派遣を継続する。 | Ⅲ    | 8月6日に両大学の研究交流を目的とする合同研究発表会及び教育交流を目的とした合同FD研修会を開催し、62名(本部4名、県大21名、看大37名)が参加した。<br>また、次年度の両大学の共同研究助成の募集を行い、6件を採択したほか、県立大学において新たに実施した公務員試験対策講座に看護大学の学生も参加した。 |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

II 教育研究組織の見直しに関する目標

|      |  |
|------|--|
| 中期目標 | 教育研究組織が、社会ニーズを適切に反映し、かつ、その目的・目標に即して機能し、運営されているか、常に点検・検証し、柔軟かつ機動的に教育研究組織や職員配置を改善する。 |
|------|--|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|--|------|--|
| 81 | 学術研究の動向や、社会・経済情勢の変化を見据え、学部学科等の組織の点検、検証を実施する。 | 81-1 | 学術研究の動向や社会・経済情勢の変化を見据え、新たなカリキュラムに対応して組織的な教育を提供できるよう、学部学科等の組織の点検、検証を実施する。 | IV   | (看護大)<br>5月に教員編成方針を取りまとめて公表した。学科目担当制であるため相互の教育研究上の関連が薄かった人間科学領域、健康科学領域の教員組織を点検し、科目群担当制への変更の検討を開始した。看護専門領域においても、社会状況に応じた教育が提供できるよう再編成する方策を検討した。<br>(県立大)<br>学術研究の動向や社会・経済情勢の変化を見据えて実施したカリキュラム改定及びコース制の導入に伴い、コース長を新たに任命し、新分野の教員採用を行った。また、環境科学科では領域の再編を行った。 |
| 82 | 学生や教員の意見を把握する仕組みを構築し、職員配置の改善につなげる。           | 82-1 | 学生アンケートや職員への意見聴取を行うなど、学生及び職員の意見を把握する仕組みを検討し、教員配置等の改善を図る。                 | III  | (看護大)<br>役職者はその管理下にある教職員と面接して要望を聴取し、教職員の異動や退職に合わせて組織体制の改善に反映した。学部生の生活実態把握調査や本学の教育内容・学生支援に関する学生の意見把握調査を行うとともに、大学院生との懇談会を開催し、本学の学生および院生の支援体制の改善に努めた。<br>(県立大)<br>各学科長による個別面談を実施し、教員の意見を徴収するとともに、授業評価アンケートや卒業予定者アンケートなどから学生の意見の把握に努め、教育改善に活用した。             |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

Ⅲ 人事の適正化に関する目標  
1 教員の採用

中期目標 教員の採用方針は、学術や経済等の社会情勢を踏まえ、大学の将来を見据えた戦略的観点から決定する。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|--|------|---|
| 83 | 教員の採用方針については、経営審議会の意見を踏まえて大学の将来展望を勘案し、選考委員会での検討を経て学長の責任で決定する。 | 83-1 | 社会情勢等を踏まえて教員の採用方針を検討し、経営審議会の意見に基づき学長の責任において決定する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>定年退職者の後任選考等について、教育の継続性や、社会情勢を踏まえた新たな教育領域の必要性から、採用案を作成し、選考委員会での検討を経て学長の責任で決定した。助手の採用については、令和元年度から任期付きで公募することを決定した。<br>(県立大)<br>経営審議会の意見に基づき社会情勢等を踏まえて実施したカリキュラム改定及びコース制の導入に伴う教員の新規採用に際し、これまで食品科学科で不足していた食品加工の実際を教育研究できる企業経験者及び食品ビジネス学分野の教員を、選考委員会での検討を経て学長の責任で決定した。 |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

Ⅲ 人事の適正化に関する目標  
2 教員評価制度の充実

中期目標 人材配置を柔軟に見直し、適材適所の人材配置を行う。教員の資質向上のため、教育活動評価制度(教育、研究、地域貢献、大学運営)を実施・運用する。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 84 | 学長の責任において、教員評価制度を活用し、教育、研究、地域貢献等の実績を十分考慮したうえで、学科等の人材配置を柔軟に見直し、適材適所の人事を行う。 | 84-1 | (看護大)<br>前年度実施した他大学の教員評価制度の調査内容を踏まえ、本学における複数年評価導入に向けた継続検討を行う。<br>(県立大)<br>学長の責任において、教員評価制度を活用し、教育、研究、地域貢献等の実績および大学の将来構想を考慮した上で、学科等の人材配置を柔軟に見直し、適材適所の人事を検討する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>他大学の教員評価制度の調査内容を踏まえながら、アウトカム管理型の複数年評価の導入について検討を進めた。<br>(県立大)<br>教員評価制度を活用し、教育、研究、地域貢献等の実績および大学の将来構想を考慮した上で、学科等の人材配置を柔軟に見直し、新分野の教員採用を行った。                                      |
| 85 | 各大学ごとに、教員評価の結果に応じて、教員にインセンティブを与える仕組みを検討する。                                | 85-1 | (看護大)<br>教員評価の結果に応じてインセンティブを与える仕組みを設けることについて、他大学の事例紹介を交え全学的な共通理解を得る。<br>(県立大)<br>学長及び教員評価委員会は、教員評価の結果に応じて、教員にインセンティブを与える仕組みを検討する。                            | Ⅲ    | (看護大)<br>助手の複数年評価内容を見直すとともに、再任の際の判定に活用する仕組みとした。助教、講師、准教授、教授の教育研究活動基準及びインセンティブ方策については、順次検討を進める。<br>(県立大)<br>平成27～29年度の3ヶ年の実績に基づき実施した教員評価結果に応じて研究費の配分を行うとともに、インセンティブを与える仕組みの充実に向け検討を行った。 |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

Ⅲ 人事の適正化に関する目標  
3 学外活動の活性化

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 産業界や地域との連携強化による地域や社会への貢献、大学の知名度向上、職員のモチベーションや資質の向上の観点から、教員の学外活動の活性化を図る。 |
|------|---|

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|---|------|--|------|---|
| 86 | 自治体、他大学、地域企業・医療機関等と連携を強化し、教員の地域や社会への貢献を推進するとともに、大学コンソーシアム石川等の関係団体の事業に対する教員の積極的な参加を促進する。 | 86-1 | <p>(看護大)<br/>教員の学外活動を促進するため、マスコミやホームページ等を活用して教員の研究成果等を発信するとともに、医療機関等への講師派遣や地方公共団体等の審議会委員の就任を支援する。</p> <p>(県立大)<br/>包括連携協定を締結している大学及び自治体と連携強化を図り、共同・委託事業を推進する。また、大学コンソーシアム石川、能登キャンパス構想推進協議会、石川県産業創出支援機構(ISICO)等の事業において、教員の参加を促進する方策について検討を行う。</p> | Ⅲ    | <p>(看護大)<br/>教員の学外活動を促進するため、9月に北國健康生きがい支援事業で「私たちが考える今後の防災のあり方」と題した講演とパネルディスカッションを本学教員3名ほか関係者で開催し、広く県民に発信した。<br/>また、両大学の共同研究として進める障害者施設における羊飼育事業やかほく市との連携によるかほく健康弁当「愛菜弁当」の開発などの教員の活動を、マスコミやホームページ等を活用して積極的に発信した。<br/>医療機関等への講師の派遣については、26機関に延べ74名の講師を派遣するとともに、地方公共団体等の審議会委員等へは20名の教員が就任し地域に貢献した。</p> <p>(県立大)<br/>包括連携協定を締結している金沢大学及び野々市市については、共同、委託事業を継続して実施するとともに連携推進会議を開催し、さらなる連携の具体化について協議を行った。<br/>また、関係団体との共同・協力事業について、教育研究審議会、教授会等において教員に周知するなど参加促進に努めた。<br/>地方公共団体等の審議会委員等へは15名の教員が就任し地域に貢献した。</p> |

項目別実施状況

業務運営の改善・効率化に関する目標

Ⅲ 人事の適正化に関する目標  
4 人材の重視

中期目標  
職員が働きやすい環境、職務に対するモチベーションの維持向上を図る。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 87 | 職務に対する職員の要望等を把握する仕組みを構築するとともに、職員の業務分担を見直すことにより、モチベーションの維持向上を図る。 | 87-1 | 職員面談や会議等を通して職場環境の改善に関する意見等を把握し、職場改善の必要性および実施内容等について検討のうえ、優先度の高い施策から実施する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>職務改善・職場改善等の提案月間を設け、職員から業務効率化のための意見を聴取し、自動証明書発行機やウェブ出願の導入について検討を進めた。<br>(県立大)<br>職員面談の実施や学科会議等を通して職場環境の改善に関する要望等を把握し、教員の研究スペースや、研究室に所属した学生のスペースの一部見直しについて検討を行った。また、ウェブシラバスの導入、グループウェアを活用した備品管理などを実施した。さらに、成績証明書や学割証等の証明書自動発行機を導入し、対応時間帯も従来より拡充することで、事務の効率化及び学生の利便性双方の向上を図った。 |

項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標

- I 外部資金等の自己収入の増加に関する目標  
 1 外部研究資金等の獲得

中期目標 共同研究、受託研究等の産業界や地域との連携の推進、また、科学研究費補助金等の国の競争的資金など、積極的に外部研究資金獲得に努める。また、施設の地域への開放など財源を確保する方策を検討し、自己収入の増加に努める。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 88 | 科学研究費補助金や受託研究費をはじめとする外部研究資金に関する情報の収集に努めるとともに、申請に対する支援体制を充実させ、外部資金獲得に向けて積極的な応募を奨励する。 | 88-1 | (看護大)<br>科学研究費補助金や受託研究費等の外部研究資金に関する情報を収集するとともに、教員を対象とした研修会や研究支援体制の充実を図り、外部資金獲得を促進する。<br>(県立大)<br>地域の産業界と連携して共同研究や受託研究等を推進するとともに、国の競争的資金の獲得を目指し、他大学との連携により国家プロジェクトへの応募等を検討する。また、外部研究資金に関する情報収集や科学研究費補助金等の応募に関する説明会の開催、外部資金獲得に向けた申請実績を教員評価に反映する等、積極的な応募を促進する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>外部研究資金の応募情報は、事務局より全教員に周知するとともに、特に関係が深いと思われるテーマがあれば、該当講座に周知した。本年度より、科学研究費補助金の採択率の向上を目的として申請書の記載内容について、ブラッシュアップを行う体制を学内で構築した。<br>(県立大)<br>地域の産業界と連携して共同研究や受託研究等を実施するとともに、外部研究資金に関する情報は、学内メールで全職員に周知した。また、外部研究資金の月々の受け入れ状況を教育研究審議会や教授会で報告し、継続的に応募を促した。9月には、科学研究費補助金の応募に関する説明会を実施した。外部資金の申請実績、獲得実績を教員評価に反映した。 |

|    |  |  |   |
|----|--|--|---|
| 89 | <p>大学が保有する施設、知的財産の活用や公開講座等の適切な料金徴収等を検討し、自己収入の確保に努める。</p> | <p>89-1</p> <p>(看護大)<br/>公開講座等において受講料の徴収に努めるとともに、大学が保有する施設の地域に対する適切な開放のあり方について検討する。<br/>(県立大)<br/>ホームページや刊行物による情報発信、各種展示会等への参加を通して、大学の知的財産や研究シーズについて周知を図る。また、グラウンドや講義室など学校施設の公的使用における利用料金の徴収や、DNAに関する分析・解析等、外部からの受託について検討する。</p> | <p>Ⅲ</p> <p>(看護大)<br/>「新しい地域包括ケア時代のまちづくり」と題したラウンドテーブル型の人材育成事業(9/21開催)にて参加費を徴収するとともに、設定金額の妥当性に関して調査を行った。地域ケア総合センターの人材育成事業や、看護キャリア支援センターの「看護管理研修」、「看護教員現任研修事業」においても受講者から研修料を徴収した。<br/>施設の適切な開放の在り方については、施設利用の実態調査を実施して検討を進めることとした。<br/>(県立大)<br/>産学・地域交流のための研究シーズ集を発行するとともに、以下の展示会等に参加し、大学の知的財産や研究シーズについて周知を図った。<br/>・「いしかわ環境フェア2018」8/25～26(石川県産業展示館)<br/>・「イノベーション・ジャパン2018 - 大学見本市」8/30～31(東京ビッグサイト)<br/>・「BioJapan 2018」10/10～12(パシフィコ横浜)<br/>・「北陸技術交流テクノフェア2018」10/25～26(福井県産業会館)<br/>また、大学施設の公的使用における利用料金の徴収や、DNA分析、解析等の外部からの受託について検討を行った。大学が保有する特許の実施権許諾に係る契約を企業と締結した。</p> |
|----|--|--|---|



項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標

- I 外部資金等の自己収入の増加に関する目標  
2 学生納付金等

中期目標 授業料や入学金、受験料については、適切な料金の設定を行うとともに、授業料、入学金については、定員充足の維持によりその確保に努める。  
また、優秀な学生を確保するという観点からも志願者増に取り組むことにより、受験料についても増収に努める。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 90 | 学生募集活動を充実強化し、志願者の増加及び入学定員の充足に努める。                                     | 90-1 | (看護大)<br>県内の高校と連携して高大接続の状況を把握し、本学に対する高校教員の理解度や好感度を向上させる方策を検討する。また、前年度実施した高校訪問調査の結果に基づき、オープンキャンパスで高校生や社会人等に対して大学の特色や強み等について広報し、志願者の増加を図る。<br>(県立大)<br>高校訪問や入試説明会等を積極的に行い、大学の特色や強み等について高校生の理解を促進するとともに、より効果的な広報活動の実施に向けた検討を行う。また、県内の高校生を対象に生物に関する実験・実習セミナーを実施することにより、志願者の増加に努める。 | Ⅲ    | (看護大)<br>前年度の高校訪問調査結果を踏まえ、本学の特色及び強みをPRする資料を作成するとともに、個別高校訪問の際に使用するチラシやホームページの改善を行った。<br>また、ホームページ、大学案内、IPNUニュースの統一的改善に向け、業者の一元化を図った。<br>(県立大)<br>広報活動として、進学相談会32件、施設見学受入れ17件、学校訪問31件を実施し、志願者の増加に努めた。<br>更に今年度から、保護者を対象とした高校訪問も実施し、県内の高校9校において保護者向けの進学相談を行った。<br>また6月に県内高校の理科クラブの実験・実習セミナー(約200名)を本学にて行った。 |
| 91 | 授業料等の学生納付金については、公立大学であることの意義を考慮しつつ、学生の確保や、適正な受益者負担の観点から、毎年その妥当性を検証する。 | 91-1 | 授業料等の料金体系について他大学の情報を調査し、本学の料金体系の妥当性を検証する。  | Ⅲ    | 授業料等について、国の高等教育無償化に係る情報の収集に努めるとともに、他の国公立大学等の動向を引き続き調査し、検討を行った。   |

項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標

II 予算の効率的執行に関する目標

中期目標 経費の効率的執行に努め、特に維持管理経費については、業務運営の合理化、契約方法の改善等により抑制を図る。

| No | 中期計画                                    | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|--|------|--|
| 92 | 施設管理業務の長期契約の継続や光熱水費等の節減に努めるなど経費の抑制に努める。 | 92-1 | 施設管理等の業務委託契約において、内容を精査のうえ長期契約を締結することで経費抑制に努める。また、光熱水費節減のため、一斉休校日の設定や冷暖房の定時停止等、省エネルギー対策を実施する。 | III  | (看護大)<br>今年度、契約期間満了となる設備等保守管理業務委託、緑地管理業務委託、昇降用設備保守管理業務委託について、委託内容を精査するとともに長期契約を継続して実施した。また、8月に一斉休業日の設定や電力会社の省エネコンサルの活用、空調の稼働開始時間の調整などによる電気料金の節減に努めた。<br>(県立大)<br>光熱水費節減のため、8月に一斉休業日を設定し冷房を停止したほか、オープンキャンパスにおいては電力会社と冷房効率向上対策を検討し実施した。また、冬期においても暖房の定時停止等、省エネルギー対策を実施した。<br>なお、設備等保守管理、校舎等清掃、警備、緑地管理、昇降機保安保守管理の業務委託について、3年間の長期契約(平成30年4月～令和3年3月)を締結している。 |

項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標

Ⅲ 資産管理の改善に関する目標

中期目標 資産の適切な管理に努めるとともに、効率的・効果的な利用に努める。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|--|------|---|------|--|
| 93 | 大学運営に支障が生じない範囲内で、大学施設を地域に積極的に開放するなど、保有資産の有効活用に努める。 | 93-1 | 大学施設の開放を行い、地域の行事や公的な研修・試験等の会場として資産の有効活用を図る。 | Ⅲ    | (看護大)<br>地元のイベントや介護職員研修等の会場として、大学運営に支障のない範囲内において体育館、講義室等の使用を許可し、施設の有効利用を図った。<br>(県立大)<br>常時大学見学や県政バスの受け入れを行い県民に対して大学を開放するとともに、野々市市拠点避難所として野々市市総合防災訓練に施設を開放するなど、施設の活用を図った。<br>また、中学生の職場体験受入、資源研農場収穫祭などで地域の親子に農場を開放した。 |

項目別実施状況

自己点検評価及び情報提供に関する目標

I 評価の活用に関する目標

|      |   |
|------|---|
| 中期目標 | 自己点検評価を定期的実施するとともに、認証機関が行う大学評価及び石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価の結果も併せて、教育研究活動や業務運営の改善に活用する。 |
|------|---|

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 94 | 自己点検評価、認証評価機関が行う大学評価、石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価の各評価の結果を、大学運営の改善に確実に反映させる。 | 94-1 | (看護大)<br>石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価に基づいた大学運営の改善を実施する。また、認証評価機関が行う大学評価のための資料作成及び提出を行ない、その経過で明らかになった課題について自己点検評価を実施し、大学運営の改善を図る。<br>(県立大)<br>認証評価機関による大学評価結果に基づき、大学院の定員充足に向けて、特待生制度及び推薦入学制度を継続するとともに、新たな対応策の検討を行う。また、石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価に基づいた大学運営の改善を実施する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>認証評価機関が行う大学評価のための資料作成及び提出を行うとともに、教育の内部質保証に関する大学の方針について明文化し、学内に周知した。また、自己点検評価サイクルに活用する在学生・卒業生調査についても、内容の充実を図り、2月に実施した。<br>(県立大)<br>大学院の定員充足に向けて、新たな対応策の検討を学長補佐会議等で行い、特待生制度及び推薦入学制度を継続するとともに、2年生から博士前期課程への進学希望を募り、適切な担当教員へマッチングを行う体制を試行した。 |

項目別実施状況

自己点検評価及び情報提供に関する目標

- II 情報提供の推進に関する目標  
1 情報公開の推進

中期目標 公立大学法人として、社会に対する説明責任を果たし、大学運営の透明性を確保するため、情報公開を推進する。

| No | 中期計画  | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|----|---|------|---|------|--|
| 95 | 大学運営の透明性を確保するため、運営状況、財務状況や評価内容等について、広く適正に情報公開を推進する。 | 95-1 | 自己点検評価や認証評価機関が行う大学評価、石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価の結果、教育情報等をホームページ上で公開する。 | III  | (看護大)<br>今年度取りまとめた本学自己点検評価結果や本学開催のイベント・事業実施状況について、ホームページ上で公開した。<br>(県立大)<br>平成29年3月に受けた大学改革支援・学位授与機構が行う大学評価結果をホームページ上で公開した。来年度から導入されるコース制の概要を説明した特設サイトや教育・研究内容を高校生向けに分かり易く紹介するショートムービーを作成しホームページに掲載した。<br>(共通)<br>石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価結果及び財務諸表等をホームページ上で公開した。 |

項目別実施状況

自己点検評価及び情報提供に関する目標

II 情報提供の推進に関する目標  
2 情報発信の推進

中期目標 大学の認知度向上を図るため、教育、研究、地域貢献等の活動に関する情報発信を推進する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|--|------|---|
| 96 | 教育、研究、地域貢献活動などに関する情報を戦略的かつ効果的に公開・提供できるよう広報体制を強化し、大学のホームページをはじめとした多様な媒体を活用して、積極的な情報発信を行う。 | 96-1 | (看護大)<br>本学の認知度向上を図るため、広報媒体を充実させるとともに、大学のホームページにおいて新設の助産師養成課程の特色に関する情報発信を行う。<br>(県立大)<br>ホームページや広報誌等を通して、入試や就職、地域貢献等に関する情報発信を積極的に行うとともに、学術機関リポジトリに年報及び大学紀要を掲載し、研究成果の情報発信を強化する。 | III  | (看護大)<br>本学の特色やキャンパスライフを紹介するホームページ上の受験生応援サイトである『My Color』の充実や、大学新聞のリニューアルを行うとともに、助産師養成課程の新設について積極的に情報発信を行った。また、今後5年間の広報戦略を企画し、各広報媒体のデザインを統一的にリニューアルすることで、高校生等に対する発信力を強化することとした。<br>(県立大)<br>ホームページ上で入試や地域貢献等に関する情報発信を積極的に行った。コース制の内容を説明した特設サイトや教育・研究内容を高校生向けに分かりやすく紹介するショートムービーの作成及びこれらとリンクしたウェブ広報、通知表渡しの日などに高校訪問し高校生や保護者に直接PRする取り組みなど、戦略的、積極的な広報活動を行った。また、広報誌のターゲットを高校生に絞り、県立大学でのキャンパスライフを身近に感じてもらえるよう内容を吟味して作成した。さらに、学術機関リポジトリに大学紀要を掲載した。 |

項目別実施状況

その他業務運営に関する目標

I 施設設備の整備に関する目標

中期目標 良好な教育研究環境を保つため、施設、設備、教育研究用備品の整備や改修を計画的に進める。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 97 | 施設、設備、教育研究用備品については、定期的な点検を行い、状況を把握するとともに必要に応じて修繕等を実施する。また、両大学とも設備等の老朽化が進むことが想定されることから、今後、これらを計画的に更新すべく、数年間にわたる整備計画を策定する。 | 97-1 | 施設・設備・教育研究用備品等の定期点検を行い、必要に応じて整備・修繕等を実施するとともに、情報機器(PC・プリンタ)、学生情報システム等の情報システムの更新を実施する。また、引き続き長期修繕整備計画に基づいて老朽化対策を実施する。 | Ⅲ    | 施設等の定期点検を実施し、緊急度を考慮しながら修繕等を実施するとともに長期修繕計画に基づき空調設備の更新を行った。また、情報機器、学生情報システム等の更新を実施したほか、備品整備計画に基づき教育研究用備品の整備を実施した。 |

項目別実施状況

その他業務運営に関する目標

II 安全に関する目標  
1 安全管理

中期目標 防災対応や安全管理のための体制を整備し、学生や職員の安全を確保する。

| No | 中期計画   | No   | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|----|--|------|---|------|---|
| 98 | 災害時・緊急時の危機管理マニュアルを必要に応じて見直すとともに、学生及び職員に内容を周知し、危機管理体制を整備する。 | 98-1 | 災害時等における執務体制要領を作成して職員に周知するとともに、緊急事態発生時のマニュアルを学生及び職員に配布する。また、消防避難訓練や地震対応訓練を実施する。 | III  | (看護大)<br>災害時における執務体制要領について時点修正し、緊急事態発生時マニュアルとともに職員に周知したほか、携帯版の大地震対応マニュアルを新生入生に配布した。<br>また、消防避難・地震対応訓練を7月18日に実施し、学生及び職員228名が参加した。<br>(県立大)<br>4月に災害時等における執務体制要領を教職員に周知するとともに、携帯版の大地震対応マニュアルを新生入生、新規採用職員等に配布した。<br>また、学生情報システムの機能を用いた教員への緊急連絡テストや消防訓練、県民一斉防災訓練(シェイクアウトいしかわ)を実施した。 |



|    |   |   |  |
|----|---|---|--|
| 99 | 全学的な安全衛生管理体制・防犯体制を整備し、学生及び職員の安全確保と健康保全に努める。 | 99-1<br>犯罪注意情報の掲示やポスターなどを通して学生に対して防犯意識の向上を図る。また、学内で取り扱う毒劇物等について、使用実績や在庫管理等の適切な管理を行うとともに学生及び教員を対象に安全講習会を開催する。さらに、教職員のストレスチェックを実施し、分析結果等から労働環境及び安全衛生の改善を検討する。 | <p>(看護大)<br/>盗難防止のポスターを新たに掲示したほか、学生の防犯意識の向上を図るため、各学年クラスアワーにて、防犯、海外旅行時の申請、緊急連絡先の確認などの諸注意を行った。また、新入生に対する犯罪被害を未然に予防するセミナーを新年度前期に計画した。さらに、職員や学生の健康障害を防止するため、年3回(6月、11月、3月)職場巡視を実施し、必要な措置を講じた。</p> <p>ストレスチェックを実施するとともに「職員保健だより(春号)(冬号)」や、リーフレット「自分の時間外労働について考えよう働き過ぎて疲れていませんか？」を職員に配布することで、セルフマネジメントを促した。</p> <p>(県立大)<br/>犯罪注意情報のメール配信やポスターなどを通じて学生の防犯意識の向上に努めた。また、学内の毒劇物等についての管理方法の見直しを行うとともに、4月6日に環境安全講習会を実施した(教員2名、学生110名受講)。</p> <p>また、ストレスチェックや職員との面談の結果等を踏まえ、時間外勤務等の負担軽減及びより効率的な業務遂行を図るため、臨時職員の配置・分担業務の見直しを行うとともに、次年度に向けて正規職員の配置の見直しについて検討を行った。</p> |
|----|---|---|--|

項目別実施状況

その他業務運営に関する目標

- II 安全に関する目標  
2 情報セキュリティ対策

中期目標  
個人情報保護など情報セキュリティ体制を整備する。

| No  | 中期計画  | No    | 年度計画   | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|-----|---|-------|--|------|---|
| 100 | 学内の情報セキュリティ体制の整備と情報管理の適正化を図るとともに、情報システム利用に関する研修会を実施するなど、学生及び職員の情報リテラシーの向上を図る。 | 100-1 | 石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの適切な運用を行うとともに、職員を対象とした情報セキュリティ研修や学生を対象とした啓発活動を行う。また、情報システム機器等の更新においてセキュリティ機能の確保を図る。 | III  | 職員を対象とした情報セキュリティ研修や学生を対象とした啓発活動を行うとともに、情報資産管理システムによるソフトウェア・ライセンス及び情報機器の適正な管理に努めた。<br>また、情報システム機器等の更新においてセキュリティ機能の確保を図るとともに、石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの見直しについて検討を行った。 |

項目別実施状況

その他業務運営に関する目標

- Ⅲ 法令遵守等に関する目標  
1 法令遵守

中期目標 職員のコンプライアンス意識の徹底を図り、不正行為の防止など法令等に基づく教育研究活動及び大学運営を行う。

| No  | 中期計画  | No    | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)  |
|-----|---|-------|---|------|---|
| 101 | 研究における不正行為、研究費の不正使用について、職員への研修等啓発活動を強化し、不正防止に努める。 | 101-1 | 研究活動上の不正行為防止のため、教員や研究員等を対象とした研究倫理研修会を開催するとともに、研究費不正防止のため、職員にマニュアルを配付のうえ適正な発注および納品管理を徹底する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>研究不正防止を図るため、2月に「人を対象とした研究における利益相反について」をテーマに教職員並びに大学院生向けの研修会を行い、研究費不正防止のため適正な発注と納品管理を徹底した。<br>(県立大)<br>4月に新任教員オリエンテーションを実施し、物品発注ルールや公的研究費の適正使用、研究活動上の不正行為への対応に関する基本方針等についての説明を行った。また、9月に研究倫理講習会を開催し、研究費不正防止のため適正な発注と納品管理を徹底した。<br>(共通)<br>APRINの研究倫理に関するe-ラーニングについて、教員の受講を徹底した。 |

項目別実施状況

その他業務運営に関する目標

Ⅲ 法令遵守等に関する目標  
2 人権の尊重等

中期目標 学生及び職員に対するハラスメントを防止するなど、人権を尊重するとともに、男女共同参画の推進、環境への配慮など公立大学法人としての社会的責任を果たす全学的な体制を整備する。

| No  | 中期計画  | No    | 年度計画  | 自己評価 | 判断理由(計画の実施状況等)   |
|-----|---|-------|---|------|--|
| 102 | セクシャルハラスメント、キャンパスハラスメントなどの人権侵害の防止や男女共同参画の推進を図るため、相談体制の充実、職員に対する研修など啓発活動を強化する。 | 102-1 | キャンパスハラスメント防止等に関する規定および相談体制を必要に応じて改善するとともに、研修等を通して学生および職員に対して人権保護及び倫理遵守のための啓発活動を実施し、倫理に反する事案等が発生した場合は、調査部会で調査・審議のうえ適切に対処する。 | Ⅲ    | (看護大)<br>実習指導におけるハラスメント予防の啓発活動の一環として、3月に若手教員対象の研修会を開催した。<br>(県立大)<br>全学年を対象にハラスメント防止に係るアンケートを実施し、ハラスメントに対する意識の把握と向上に努めるとともに、各学科、各所属にハラスメント相談員を配置するとともに、相談箱を設置し学生及び教職員からの相談に対応した。<br>また、カウンセラーによる相談体制については、これまで隔週で実施していたものを、来年度から毎週実施に拡充することとした。  |
| 103 | 学生及び職員が一体となって環境マネジメント活動を実施する体制を構築する。  | 103-1 | 再生品やエコマーク商品など環境に配慮した物品を購入するとともに、エネルギー使用量の抑制のため、学生及び職員が一体となって節電に努める。   | Ⅲ    | (看護大)<br>再生品やエコマーク商品など環境に配慮した物品を購入するとともに、エネルギー使用量の抑制のため、学生及び職員が一体となって不要なエレベーター使用の抑制や、退室時の照明・エアコンをOFFにする等を徹底し、節電に努めた。また、節電を推進するワーキンググループを新年度から新たに設けることとした。『学生便覧2019』の改訂に際して節電・節水・紙の節約・環境保全について明記した。<br>(県立大)<br>再生品やエコマーク商品など環境に配慮した物品を購入するように努めた。また、コピー用紙の両面使用や裏紙の利用、リサイクルできる紙製品の分別収集を行うとともに8月に一斉休業日を設定し、節電に努めるなど学生及び職員が一体となって取り組んだ。 |